

平成30年度 業務実績報告書

第1期中期目標期間終了時 業務実績見込み報告書



令和元年 6月

公立大学法人 奈良県立大学

平成30年度
業務実績報告書

I 教育【教育内容の充実】

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

法人の評価	A	理由	2～4年生でコモンズゼミを実施した。	中期計画 年度計画 連番	1
-------	---	----	--------------------	--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成

【中期計画】

よく聞きよく話し合う教育を目的とした学びの共同体を構築します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生と教員による学びの共同体として4つの領域(観光創造・都市文化・コミュニティデザイン・地域経済)の学習コモンズを設け、ゼミを重視したカリキュラムを段階的に導入し、平成29年度に完成	2～4年生にコモンズゼミを導入する。	・2～4年生でコモンズゼミを実施した。	・なし	・なし

I 教育【教育内容の充実】

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

法人の評価	A	理由	毎月議案について確認し、必要に応じて会議を実施し、情報の共有等を行った。	中期計画 年度計画 連番	2
-------	---	----	--------------------------------------	--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成

【中期計画】

よく聞きよく話し合う教育を目的とした学びの共同体を構築します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
教員によるコモンズ連絡会議での検討による情報交換及び教育手法への活用	コモンズ連絡会議を定期的に行い、情報交換及び教育手法への活用を行う。	・毎月議案について確認し、必要に応じて会議を実施した。	・なし	・なし

I 教育【教育内容の充実】

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

法人の評価	A
-------	---

理由	県内2自治体と連携協定を締結した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	3
--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

平成26年度からの新カリキュラムにおいて必修化したフィールドワークを充実させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域交流センターの機能強化(市町村との連携協定の締結)	市町村等および県内企業との連携協定の締結を進める。	・「三宅町」「五條市」と連携協定締結した。(地域連携関連:累計30先、うち県内29先)	・なし	・協定締結先との連携を強化する。

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数	指標		18先	19先	20先	21先	22先	23先	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、目標を上回っている。
	実績	17先	21先	22先	27先	29先			

I 教育【教育内容の充実】

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

法人の評価	A	理由	順調にフィールドワークの受入先を開拓した。	中期計画 年度計画 連番	4
-------	---	----	-----------------------	--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

平成26年度からの新カリキュラムにおいて必修化したフィールドワークを充実させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
各コモンズ教員と地域交流センターによるフィールドワーク先の開拓	各コモンズ教員と地域交流センターにより、フィールドワーク先の開拓を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内を中心にフィールドワーク受入先を35件開拓した。(フィールドワーク受付件数:累計174先、県内149先、県外25先) ・教員と連携し、学生と地域のニーズに適応したフィールドワークを開拓した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
県内団体等からのフィールドワーク受入先件数	-	64先	96先	114先	149先			県内団体等のFW受入は良好に推移している。

I 教育【教育内容の充実】

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

法人の評価	A
-------	---

理由	2～4年生でフィールドワークを実施し、新2年生のフィールドワーク実施体制を整理した。
----	--

中期計画 年度計画 連番	5
--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

平成26年度からの新カリキュラムにおいて必修化したフィールドワークを充実させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
平成26年度入学生から必修化したフィールドワークを毎年着実に実施	<ul style="list-style-type: none"> 2～4年生でフィールドワークを実施する。 今後のフィールドワークの実施方法等について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2～4年生でフィールドワークを実施した。 新2年生のフィールドワーク実施方法を整理した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕実習件数	指標		400件	800件	1,200件	1,200件	1,200件	1,200件	
	実績	-	214件	948件	2,195件	2,200件			

I 教育【教育内容の充実】

3 リベラルアーツ教育の充実

法人の評価	S
-------	---

理由	平成30年度に新たにリベラルアーツ8科目を実施し、平成31年度に3科目を増加する。
----	---

中期計画 年度計画 連番	6
--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

学生の基礎学力や教養を培うためのリベラルアーツ教育を強化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
リベラルアーツ教育に係る科目数の増加(古典教育、社会人として必要な政治・経済などの基本的知識、理系科目など)	リベラルアーツ科目の増加について検討する。	・教養講義Ⅲ(中国経済概論Ⅰ-入門編-)、教養講義Ⅳ(中国経済概論Ⅱ-応用編-)、教養講義Ⅵ(地域連携・創生演習)、教養講義Ⅶ(防災系)、憲法と社会、科学技術と社会、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡを新たに実施(リベラルアーツ 32科目)するとともに、平成31年度に新たに3科目の増加を決定した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕リベラルアーツ科目数	指標		19科目	20科目	20科目	21科目	21科目	22科目	リベラルアーツ科目の充実のため指標を上回って開講している。
	実績	19科目	21科目	25科目	26科目	32科目			

I 教育【教育内容の充実】

3 リベラルアーツ教育の充実

法人の評価	A	理由	東アジア・サマースクールを実施し、様々な分野で活躍する学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘した。	中期計画 年度計画 連番	7
-------	---	----	--	--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

学生の基礎学力や教養を培うためのリベラルアーツ教育を強化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘し、学生の想像力・モチベーションを高める	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア・サマースクールを開催するとともに、教養講義Ⅱ（東アジアと日本）として単位化する。 学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘することを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア・サマースクールを単位化した教養講義Ⅱ（東アジアと日本）を実施し、学外の著名な有識者・実務者等（14名）を外部講師として招聘した。 「地域創造学入門」で学外の著名な有識者等を外部講師として2名招聘した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
学外の有識者等招聘数(サマースクールの外部講師)	-	14人	13人	14人	14人			様々な分野の専門家を招き、学生の教養を高めるよう工夫している。

I 教育【教育内容の充実】

3 リベラルアーツ教育の充実

法人の評価	A	理由	アンケートを実施し各授業ごとに教員が問題点・改善点等について検討した。	中期計画 年度計画 連番	8
-------	---	----	-------------------------------------	--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成

【中期計画】

学生の基礎学力や教養を培うためのリベラルアーツ教育を強化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生による授業評価等によるリベラルアーツ教育の効果の把握及び検証	学生による授業評価を実施し、リベラルアーツ教育の効果の把握及び検証を行う。	・前、後学期授業について「講義方法と受講態度に関するアンケート」を実施し、各授業ごとに教員が問題点・改善点等について検討した。	・なし	・なし

I 教育【教育内容の充実】

4 高度な語学教育の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	英語アドバンストを開講し、観光英語、ビジネス英語、TOEFL受験英語の授業を実施した。
----	---

中期計画 年度計画 連番	9
--------------------	---

【中期目標】 期待する成果

海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成

【中期計画】

コミュニケーション能力の向上に重点をおいた実践的な語学教育を提供します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
能力別英語クラスの導入と海外留学希望者向け特別英語学習プログラムの導入	英語アドバンストⅠ～Ⅵを開講して、観光英語(Ⅰ・Ⅱ)、国際ビジネス英語(Ⅲ・Ⅳ)、TOEFL受験英語(Ⅴ・Ⅵ)に関する授業を継続して実施する。	・英語アドバンストⅠ、Ⅱ(観光英語)、Ⅲ・Ⅳ(国際ビジネス英語)Ⅴ・Ⅵ(TOEFL受験英語)を実施した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
英語アドバンストの開講数	2科目	3科目	6科目	6科目	6科目			英語アドバンストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの6科目で実施。
英語アドバンストの履修学生数	-	-	-	-	288人			平成30年度より実績把握

I 教育【教育内容の充実】

4 高度な語学教育の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	ネイティブ講師による英語授業及び英語アドバンスト授業、e-caféやスピーチコンテストを実施した。
----	---

中期計画 年度計画 連番	10
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成

【中期計画】

コミュニケーション能力の向上に重点をおいた実践的な語学教育を提供します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
英語でのコミュニケーション能力を涵養するための発声や話し方を含めた実践的英語教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンストによる観光英語・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を継続して実施する。 ・e-caféにネイティブ講師を招き、実践的な英語を身につけさせる。 ・スピーチコンテストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンストによる観光・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を継続して実施した。 ・e-caféにネイティブ講師を招き、実践的な英会話等を実施した。 ・英語スピーチコンテストを実施した。(12月) 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
ネイティブ講師の開講数	4科目	4科目	4科目	4科目	4科目			英語Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅷの4科目で実施。
ネイティブ講師の履修学生数	-	-	-	-	495人			4科目5クラスで実施(平成30年度より実績把握)

I 教育【教育内容の充実】

4 高度な語学教育の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	TOEFL団体試験を2度実施した。また、成績優秀者の表彰を行った。
----	-----------------------------------

中期計画 年度計画 連番	11
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成

【中期計画】

コミュニケーション能力の向上に重点をおいた実践的な語学教育を提供します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
TOEFL受験に対する支援	TOEFL受験に対する支援を継続する。後期の試験における成績優秀者の表彰を行う。	<ul style="list-style-type: none"> TOEFL ITP団体試験を新入生全員(2年生以上は希望者受験)に実施(4月)し、受験料については半額を補助した。 TOEFL ITP団体試験(2回目 1月)を実施し、成績優秀者の表彰を行った。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
TOEFL ITP受験者数	-	-	-	199人	195人			新入生全員(2年生以上は希望者)が受験している。

I 教育【学生への支援】

5 意欲ある学生の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	広報委員会で効果的な学生募集の方法について検討し、オープンキャンパス、大学説明会の参加者数が増となった。
----	--

中期計画 年度計画 連番	12
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

【中期計画】

入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
効率的、効果的な学生募集の方法確立	入試委員会及び広報委員会で効率的、効果的な学生募集の方法を継続的に検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問を実施した。(県内29件、県外36件) ・広報委員会(月1回)を開催して効果的な学生募集の方法について検討し、オープンキャンパスのプログラムを見直し、教員の研究紹介の実施やキャリアの説明会を実施するとともに、個別相談の窓口を増やした。オープンキャンパス参加組数418組(前年比:1.27倍) ・大学説明会では新たに模擬講義を実施した。参加組数83組(前年比:1.46倍) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕大学PRのための 高校への説明件数	指標		65件	68件	71件	74件	77件	80件	県内高校について、学力のレベルにあった高校を対象を絞ったため訪問件数が減少した。
	実績	56件	71件	86件	77件	65件			
オープンキャンパス参加者数		256組	482組	391組	329組	418組			前年比:1.27倍
大学説明会参加者数		-	-	76組	57組	83組			前年比:1.46倍

I 教育【学生への支援】

5 意欲ある学生の確保

法人の評価

A

理由

新しい大学入試共通テストに関する対応について検討した。

中期計画
年度計画
連番

13

【中期目標】 期待する成果

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

【中期計画】

入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
入試制度の継続的な改善検討(5教科受験入試の導入検討など)	大学改革推進委員会での検討内容を踏まえて、入試委員会において、入試制度の改善について継続的に検討する。	・大学改革推進委員会、入試委員会において、令和2年からの新しい大学入試共通テストに関する対応について検討した。	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

5 意欲ある学生の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	大学案内や大学広報誌の発行、高校訪問等による入試広報を行った。
----	---------------------------------

中期計画 年度計画 連番	14
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

【中期計画】

入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
入試広報の充実(卒業生との連携による県内外へ向けた大学のPRの強化など)	大学案内やキャンパスジャーナルの発行、高校訪問等による入試広報を継続的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学案内2019を発行した。(5月) ・高校訪問を実施した。(65校) ・オープンキャンパスを実施した。(8月) 参加者組数418組(前年比:1.27倍) ・大学説明会を実施した。(10月) 参加者数組83組(前年比:1.46倍) ・大学広報誌「キャンパスジャーナル」と地(知)の拠点整備事業情報誌「コモンズ」を統合した「Narapu」第1号(10月)、第2号(3月)を発刊した。学生の出身校や提携先、自治体等に配布した。(各7,000部発行) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
[評価指標]大学PRのための高校への説明件数	指標		65件	68件	71件	74件	77件	80件	県内高校について、学力のレベルにあった高校を対象を絞ったため訪問件数が減少した。
	実績	56件	71件	86件	77件	65件			
大学案内発行部数		15,000部	12,000部	12,000部	12,000部	12,000部			必要部数を作成することが確保できている。

I 教育【学生への支援】

5 意欲ある学生の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	県内高校への訪問やオープンキャンパス等を実施し、県内高校生の受験者が増加した。
----	---

中期計画 年度計画 連番	15
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

【中期計画】

入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県内高校生の受験者を増やすための効果的な取り組み	県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学長・副学長・事務局長による県内高校訪問を実施した。(29校) ・オープンキャンパス、大学説明会を実施し、入試広報に努めた。オープンキャンパス参加組数418組(前年比:1.27倍) 大学説明会参加組数83組(前年比:1.46倍) 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
大学PRのための県内高校への説明件数	8校	0校	30校	38校	29校			県内高校について、学力のレベルに見合った高校を対象を絞ったため訪問件数が減少した。
県内受験者数	138人	125人	108人	106人	143人			県内受験者数は100名超で推移している。

I 教育【学生への支援】

5 意欲ある学生の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	成績優秀者に給付型奨学金を給付した。
----	--------------------

中期計画 年度計画 連番	16
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

【中期計画】

入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
優秀な成績を修めた学生に対する給付型奨学金制度の構築	優秀な成績を修めた学生に対して給付型奨学金を給付する。	・成績優秀者に給付型奨学金を給付した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
奈良県立大学給付奨学金給付学生数	-	5人	9人	9人	10人			1年生3人、2～4年生各2人で、平成30年度は4年生の成績が同点となったため10人となった。

I 教育【学生への支援】

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

法人の評価

A

理由

FD研修会を開いて平成31年度以降の新しい取組を策定した。

中期計画
年度計画
連番

17

【中期目標】 期待する成果

学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ

【中期計画】

各科目内容の充実を図るため、教員の教育力や教育方法の継続的な改善・向上に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生の授業評価を活用した、授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学生による授業評価を実施し、結果を活用して授業の質の向上を図る。 FD委員会において、評価方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前学期・後学期授業について「講義方法と受講態度に関するアンケート」を実施し、授業ごとに教員が問題点・改善点等について検討した。 FD・SD委員会において授業の質的向上を検討し、FD研修会を開いて平成31年度以降の新しい取組を策定した。 	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

法人の評価	A	理由	毎月議案について確認し、必要に応じて会議を実施し、情報の共有等を行った。	中期計画 年度計画 連番	18
-------	---	----	--------------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ

【中期計画】

各科目内容の充実を図るため、教員の教育力や教育方法の継続的な改善・向上に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
コモンズ連絡会議を開催し、教育内容の充実を継続的に検討	コモンズ連絡会議を定期的に行い、教育内容の充実について検討する。	・毎月議案について確認し、必要に応じて会議を実施し、情報の共有・教育内容の充実について検討した。	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

法人の評価	A	理由	学生の履修状況や授業評価を考慮してカリキュラムを編成し、科目の追加、統合を行った。	中期計画 年度計画 連番	19
-------	---	----	---	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ

【中期計画】

各科目内容の充実を図るため、教員の教育力や教育方法の継続的な改善・向上に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生の履修状況、授業評価を考慮したカリキュラムの構築	教務委員会において学生の履修状況、授業評価を考慮して平成31年度のカリキュラムを検討する。	・教務委員会において学生の履修状況や授業評価を考慮して平成31年度のカリキュラムを編成し、リベラルアーツ科目、語学科目、専門科目の追加、統合を行った。	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

法人の評価	A	理由	FD研修会を開いて平成31年度以降の新しい取組を策定した。	中期計画 年度計画 連番	20
-------	---	----	-------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ

【中期計画】

各科目内容の充実を図るため、教員の教育力や教育方法の継続的な改善・向上に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
FD(Faculty Development)研修会の実施、任期制適用教員の評価制度の実施による教育力の向上	FD研修会を実施して、教員の教育力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> FD研修会を開いて、授業の質的向上について、平成31年度以降の新しい取組を策定した。 教育活動により長期的ビジョンをもって取り組めるよう、任期制適用教員の再任審査期間の見直しについて検討した。 	なし	なし

FD(Faculty Development): 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。

その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。(文部科学省ホームページより)

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A
-------	---

理由	キャリア教育として「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」を開講した。
----	---------------------------------------

中期計画 年度計画 運番	21
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
初学年次からのキャリア教育の充実	平成30年度からキャリアデザインⅠ（前学期）、キャリアデザインⅡ（後学期）を開講する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度前学期、リベラルアーツ科目として「キャリアデザインⅠ」、夏期集中講座として「キャリアデザインⅡ」を開講した。 3年生対象「キャリア形成講座・就職対策講座」を前年度に引き続き実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持						卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%			
キャリアデザインⅠ履修者数		-	-	-	-	124名			期待の数値を確保できた
キャリアデザインⅡ履修者数		-	-	-	-	52名			期待の数値を確保できた

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価

A

理由

キャリア・サポート室の利用状況やアンケート結果をもとに細やかなサポートを実施した。

中期計画
年度計画
連番

22

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
就活生に対する細やかなサポートの実施	就活相談、履歴書作成や面接のサポート等就活生に対する細やかなサポートを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談、応募書類作成や面接のサポート等、就活生に対する個別カウンセリングを継続的に実施した。 ・就職活動状況の調査を7月・11月・3月に実施し担当教員との情報を共有した。 	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A	理由	ゼミ担当教員、キャリア・サポート室が連携して就職サポートを実施した。	中期計画 年度計画 連番	23
-------	---	----	------------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
担当教員とキャリアサポート室が一体となって就職サポートを実施	4年生のコモンズゼミ担当教員とキャリアサポート室が一体となって就職サポートを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生コモンズゼミ担当教員とキャリア・サポート室が一体となって就職内定状況を把握した。 ・各ゼミ生について、担当教員とキャリア・サポート室が情報交換を行い、学生と企業のマッチングを行い就職活動のサポートを実施した。 ・キャリア・サポート室から、学生へ就職サポートになる情報発信を実施した。 	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A
-------	---

理由	4年生の就職活動状況調査を実施し、学生の就職活動の状況を把握した。
----	-----------------------------------

中期計画 年度計画 連番	24
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
担当教員による学生の就職活動状況の逐次把握	2月就職委員会で決定した就職状況把握管理スケジュールに沿った状況把握を行うとともに、逐次把握に向けた検討を行う。	・就職相談、応募書類作成や面接のサポート等、就活生に対する個別カウンセリングを継続的に実施した。 ・就職活動状況の調査を7月・11月・3月に実施し担当教員との情報を共有した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析	
〔評価指標〕就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持							卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%				

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A	理由	就職サポートに関する学生アンケートを実施し要望を把握した。	中期計画 年度計画 連番	25
-------	---	----	-------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
就職サポートに関する学生の要望の把握	学生アンケートを実施し、就職サポートに関する学生の要望を把握する。	・学生アンケートに就職サポートに関する項目を含めて実施し要望を把握した。	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A	理由	平成28年度卒業生に対する卒業生キャリアアンケートを実施し、再就職活動者への支援に役立てた。	中期計画 年度計画 連番	26
-------	---	----	--	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
アンケートによる卒業生及び就職先への離職率等の追跡調査の実施	平成30年度から離職率等の追跡調査を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> ・就業1年の卒業生を対象に卒業生キャリアアンケートを実施した(4月)。 ・平成30年4月に実施した卒業生キャリアアンケートを元に、今後卒業生・在学生へのサポートに役立てる。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
卒業生キャリアアンケート回収率	-	-	-	-	23.8%			概ね想定した回収率を獲得できた。

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	S	理由	検討準備が早期に済み、前倒しで実施できた。	中期計画 年度計画 連番	27
-------	---	----	-----------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
リカレント教育センターの相談員の配備	月1回、リカレント教育センターの相談員を配置する。	<ul style="list-style-type: none"> リカレント教育センターの相談員を兼任するキャリア教育担当教員を配置し相談業務を実施した。(月1回) 既卒者からのキャリア・サポート室での相談対応件数: 33件 	なし	なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
		[評価指標]リカレント相談件数	指標		実施に向けて検討・準備				
	実績	実績なし	—	—	—	4件			

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A	理由	卒業生の就職先との連携を図り就職対策講座を行い業界理解を深めた。	中期計画 年度計画 連番	28
-------	---	----	----------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
卒業生の就職先との連携	3年生対象「就職対策講座」の業界理解講座に、外部講師を継続して招聘する。	・卒業生の就職先と、情報交換、卒業生の状況把握や求人相談、キャリア育成プログラムの講師依頼等を実施。3年生対象「就職対策講座」での業界理解分にゲストスピーカーとして協力依頼をし継続して連携した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
就職対策講座における外部講師招聘件数	-	-	-	-	6社			招聘することができた。連携活動を継続する。

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A
-------	---

理由	求人情報の提供、インターンシップへの参加を促すなどの活動を実施した。
----	------------------------------------

中期計画 年度計画 連番	29
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
ハローワーク、ジョブカフェなど他の就職支援団体との連携や県内企業に県立大学学生をPR	・ハローワークやジョブカフェと連携して、就職相談等のサポートを充実する。 ・県内企業でのインターンシップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク求人情報の紹介や、企業説明会、就職セミナーの紹介・参加を行った。 ・企業・大学交流会等のイベントに参加し奈良県立大学をPRした。 ・県内企業・団体での本学独自型インターンシップを実施した。 ・奈良県大学連合を通して県内企業・団体でのインターンシップを実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持						卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%			
奈良県大学連合インターンシップ・本学独自型インターンシップ参加学生数		-	-	-	-	27名			教員、キャリア・サポート室が連携しインターンシップへの参加を促した。

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A
-------	---

理由	就職情報の提供、学内セミナーを実施した。
----	----------------------

中期計画 年度計画 連番	30
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
就職セミナーの実施、就職相談、就職情報の提供など学生の就職支援を継続的に実施	就職セミナーの実施、就職相談、就職情報の提供など学生の就職支援を継続的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職関連情報（求人、説明会、セミナー等）を学内掲示やFacebookによってタイムリーな周知をはかった。就活生に対する個別カウンセリングを継続的に実施した。 ・就職活動支援企業によるセミナーや個別企業説明会を開催した。 ・就職セミナーの実施、就職相談、就職情報の提供など学生の就職支援を継続的に実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持						卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%			
就職対策講座開講数		-	-	-	-	18回			予定した回数が実施できた。

I 教育【学生への支援】

7 学生のキャリアサポートの充実

法人の評価	A
-------	---

理由	平成28年度卒業生に「卒業生キャリアアンケート」を実施し、就職先企業の情報を収集した。
----	---

中期計画 年度計画 連番	31
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

【中期計画】

卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
就職先の質の検証(若者の「使い捨て」が疑われる企業等の排除)	離職率等の追跡調査とあわせて、就職先企業の情報を収集する。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生へのアンケートを実施し、就職先企業の情報収集をした。 ブラック企業に関する資料を配架した。 問題のある企業を事前に見分ける方法や就職してしまった場合の対処法などの情報提供を3年生向けに実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析	
〔評価指標〕就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持							卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%				
卒業生キャリアアンケート回収率		-	-	-	-	23.8%			概ね想定した回収率を獲得できた。	

I 教育【学生への支援】

8 学生生活へのサポート

法人の評価	A
-------	---

理由	メンタルカウンセリングを月2回実施した。
----	----------------------

中期計画 年度計画 連番	32
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す

【中期計画】

メンタルヘルス相談等を充実し、中退率及び留年率の改善を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
メンタルヘルス相談など、学生相談体制の充実	メンタルカウンセリングを月2回実施する。	・メンタルカウンセリングを月2回実施した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
		[評価指標]中退率	指標		0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	
	実績	1.1%	0.5%	0.5%	0.9%	0.7%			
[評価指標]留年率	指標		2.0%	1.6%	1.2%	0.8%	0.4%	0.0%	留年率は2～3%の間で推移しており、法人化前よりも減少している。
	実績	3.7%	3.8%	2.6%	2.2%	2.3%			

進路変更等によるやむを得ない中退、病気等による休学等によるやむを得ない留年を除く。

I 教育【学生への支援】

8 学生生活へのサポート

法人の評価	A	理由	平成30年度より学務システムを稼働した。	中期計画 年度計画 連番	33
-------	---	----	----------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す

【中期計画】

メンタルヘルス相談等を充実し、中退率及び留年率の改善を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学務システムを導入し、学生へのきめ細やかなサービス提供を充実	平成30年度から学務システムを稼働する。	・平成30年4月より学務システムを稼働し、学生はPC・スマートフォンからWeb上で履修登録が行えるようになった。	・なし	・休講情報や気象警報発令時の学生への速やかな伝達について検討を要する。

I 教育【学生への支援】

8 学生生活へのサポート

法人の評価	A	理由	オフィスアワー及び授業アンケートを実施した。	中期計画 年度計画 連番	34
-------	---	----	------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す

【中期計画】

メンタルヘルス相談等を充実し、中退率及び留年率の改善を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生と教職員の交流の場やアンケートを実施することにより、学生の意見を積極的に聴取	・教員が学生の質問や相談を受けるオフィスアワーを実施する。 ・学生アンケートを実施し、学生の意見を聴取する。	・教員が学生の質問や相談を受けるオフィスアワーを実施した。 ・各講義において「講義方法と受講態度に関するアンケート」を実施した。	・なし	・なし

I 教育【学生への支援】

8 学生生活へのサポート

法人の評価	A	理由	地域交流棟3階に(仮設)ラーニングコモンズを整備した。	中期計画 年度計画 連番	35
-------	---	----	-----------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す

【中期計画】

メンタルヘルス相談等を充実し、中退率及び留年率の改善を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生共用スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> 学生共用スペースとして食堂及び自習室を提供する。 施設整備(コモンズ棟)実施設計の策定の中で、学生共用スペースの確保を検討・調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生共用スペースとして食堂及び自習室を提供した。 地域交流棟3階に(仮設)ラーニングコモンズを整備した。 施設整備(コモンズ棟)実施設計の策定に当たり、学生共用スペースについて、要望をとりまとめた。 県及び設計業者と定期的に打合せ会議を行った。 	なし	なし

I 教育【教育を支える施設整備】

9 学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備

法人の評価

A

理由

教室の整備について、要望をとりまとめた。

中期計画
年度計画
連番

36

【中期目標】 期待する成果

教員と学生が共に学べるキャンパスの整備

【中期計画】

学生の学習環境を改善するための施設整備を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、 「進捗した取組」	平成30年度計画において、 「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、 「課題・問題点」
対話型少人数教育(学習 コモンズシステム)に対応 した教室の整備	施設整備(コモンズ棟)実施設計 の策定の中で、対話型少人数教 育(学習コモンズシステム)に対 応した教室の整備について検 討・調整する。	・施設整備(コモンズ棟)実施設計の策定に当たり、対 話型少人数教育(学習コモンズシステム)に対応した教 室の整備について、要望をとりまとめた。 ・県及び設計業者と定期的に打合せ会議を行った。	・なし	・なし

I 教育【教育を支える施設整備】

9 学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備

法人の評価

A

理由

地域交流棟3階に(仮設)ラーニングcommonsを整備した。

中期計画
年度計画
連番

37

【中期目標】 期待する成果

教員と学生が共に学べるキャンパスの整備

【中期計画】

学生の学習環境を改善するための施設整備を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
ラーニングcommonsの整備	施設整備基本設計及び実施設計に向け、ラーニングcommonsの整備について検討する。	・地域交流棟3階に(仮設)ラーニングcommonsを整備した。	・なし	・県が行う施設整備基本設計および実施設計については、建物個別に実施される予定のため、適時大学からの要望を行う。

I 教育【教育を支える施設整備】

10 図書館機能の充実・強化

法人の評価	A
-------	---

理由	地域創造関連蔵書の充実がはかられている。
----	----------------------

中期計画 年度計画 連番	38
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

【中期計画】

図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域創造学関連蔵書の充実	地域創造学関連蔵書の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による質の高い選書を行った。 ・図書・研究委員会による寄贈図書の選書を行った。 ・図書受入数 1,352冊 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕蔵書数	指標		104,600冊	107,500冊	110,400冊	113,300冊	116,200冊	119,100冊	
	実績	107,360冊	109,432冊	111,017冊	112,788冊	114,140冊			

I 教育【教育を支える施設整備】

10 図書館機能の充実・強化

法人の評価

A

理由

地域創造データベースから奈良県立大学リポジトリに発展的にシステム変更した。

中期計画
年度計画
連番

39

【中期目標】 期待する成果

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

【中期計画】

図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域創造データベースの構築に対応できる環境の整備	施設整備基本設計及び実施設計に向け、メディアセンターの整備について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造データベースから奈良県立大学リポジトリに発展的にシステム変更した。 ・奈良県立大学リポジトリを編集する設備について検討した。 	・なし	・なし

I 教育【教育を支える施設整備】

10 図書館機能の充実・強化

法人の評価	A	理由	コンテンツの選定作業が進行した。	中期計画 年度計画 連番	40
-------	---	----	------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

【中期計画】

図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
メディアセンターのコンテンツの充実	コンテンツの平成31年度導入に向けて準備を進める。	・導入が必要なコンテンツとして、人文・社会学系を中心としたコンテンツの選定作業を行った。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
利用可能な有料コンテンツ数(契約している電子資料の数)	1	1	1	1	1			現状維持している。

I 教育【教育を支える施設整備】

10 図書館機能の充実・強化

法人の評価	A	理由	地域交流棟3階に(仮設)ラーニングcommonsを整備した。	中期計画 年度計画 連番	41
-------	---	----	--------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

【中期計画】

図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
ラーニング・commonsの整備	施設整備基本設計及び実施設計に向け、ラーニングcommonsの整備について検討する。(37の再掲)	・地域交流棟3階に(仮設)ラーニングcommonsを整備した。	・なし	・県が行う施設整備基本設計および実施設計については、建物個別に実施される予定のため、適時大学からの要望を行う。

I 教育【教育を支える施設整備】

10 図書館機能の充実・強化

法人の評価	A
-------	---

理由	前年度と同水準の貸出冊数を維持した。
----	--------------------

中期計画 年度計画 連番	42
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

【中期計画】

図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
図書貸出冊数の増	蔵書の充実や図書館のPRに努め、図書貸出冊数の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書貸出冊数 14,094冊 ・教員、司書、学生による推薦図書の展示 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕図書館利用人数	指標		16,300人	17,300人	18,300人	19,300人	20,300人	21,300人	平成29年度より利用人数の増加がみられる
	実績	18,701人	18,966人	18,108人	19,184人	21,711人			
〔評価指標〕図書館貸出冊数	指標		5,900冊	6,100冊	6,200冊	6,400冊	6,500冊	6,700冊	平成29年度より利用人数あたりの貸出冊数の増加がみられる
	実績	6,643冊	7,776冊	7,527冊	11,606冊	14,094冊			

II 研究

1 研究の適切な成果評価

法人の評価	A	理由	平成31年度より科学研究費補助金採択者へのインセンティブ付与制度の導入を決定した。	中期計画 年度計画 連番	43
-------	---	----	---	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

【中期計画】

科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
社会のニーズに対応した研究活動(理論的研究を含む)を行うため科学研究費補助金の積極的な確保に努める	平成31年度導入に向け、科学研究費補助金の積極的な確保に向けた申請者へのインセンティブの付与を実施するための制度設計を行う。	・科学研究費補助金採択者へのインセンティブ付与制度の導入を決定した。	・なし	・インセンティブ制度を導入だけでなく、研究支援を行う体制を整備していく必要がある。

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕科学研究費補助金の採択件数	指標		10件	10件	11件	11件	12件	12件	申請件数(科研費代表分。㉔6件→㉕5件)に大きな変化はないが、採択数が減っている。
	実績	21件	25件	21件	16件	12件			

II 研究

1 研究の適切な成果評価

法人の評価

A

理由

科学研究費補助金申請講習会の実施を決定した。

中期計画
年度計画
連番

44

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

【中期計画】

科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
科学研究費補助金申請の支援体制を確立	科学研究費補助金の申請支援のため、教員に対する科学研究費補助金申請講習会を実施する。	・平成31年度より科学研究費申請講習会を実施することを決定した。	・なし	・なし

II 研究

1 研究の適切な成果評価

法人の評価	A	理由	平成31年度より共同研究員制度の導入を決定したため。	中期計画 年度計画 連番	45
-------	---	----	----------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

【中期計画】

科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
優秀な研究者を客員研究員として招聘	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度実施に向けて、地域創造学部における客員研究員の招聘制度を設ける。 ユーラシア研究センターにおいて客員研究員を委嘱する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度より共同研究員制度の導入を決定した。 下記のユーラシア研究センター研究会に20名の客員研究員を委嘱した。 <ul style="list-style-type: none"> ①近世奈良を語る会：8名 ②谷三山研究会：6名 ③近世・近代の思想研究会：6名 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
客員研究員の委嘱数	-	-	16人	17人	20人			研究会の運営に必要な客員研究員を委嘱している。

II 研究

1 研究の適切な成果評価

法人の評価

A

理由

平成31年度より共同研究員制度の導入を決定した。

中期計画
年度計画
連番

46

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

【中期計画】

科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
フェローシップの検討	平成31年度実施に向けて、フェローシップ制度を構築するための制度設計を行う。	・平成31年度よりフェローシップの要素を含んだ共同研究員制度の導入を決定した。	・なし	・なし

II 研究

1 研究の適切な成果評価

法人の評価

A

理由

平成31年度より共同研究員制度及び客員教授等称号付与制度の導入を決定した。

中期計画
年度計画
連番

47

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

【中期計画】

科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
優れた外部研究者に対する表彰制度の創設の検討	平成31年度実施に向けて、優れた外部研究者に対する表彰制度を創設するための制度設計を行う。	・制度の必要性について再度検討した結果、共同研究員制度及び客員教授等称号付与制度の導入を決定した。	・なし	・なし

II 研究

2 課題解決に奇与する研究活動の推進

法人の評価	A	理由	学長裁量経費による研究を採択した。	中期計画 年度計画 連番	48
-------	---	----	-------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する

【中期計画】

研究成果を著書、論文や学会発表、また各種報告書や寄稿などによって発表し、広く社会に貢献します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
優秀な研究に対する支援体制の整備	学長裁量による競争的研究資金を実施する。	・学長裁量による競争的研究費を公募し、1件を採択した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
学長裁量経費助成件数	-	2件	1件	1件	1件			着実に研究を行っている。

II 研究

2 課題解決に奇与する研究活動の推進

法人の評価	A
-------	---

理由	奈良県立大学リポジトリへの論文の追加登録が進み、国立情報学研究所のCiNii Articlesとのシステム連携がはかられた。
----	--

中期計画 年度計画 連番	49
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する

【中期計画】

研究成果を著書、論文や学会発表、また各種報告書や寄稿などによって発表し、広く社会に貢献します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
高度な研究成果を広く社会に情報発信	研究季報(年4回)の発行、研究論文の奈良県立大学リポジトリ等への掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学リポジトリを公開した。(4月) ・奈良県立大学リポジトリへの追加論文登録数 516件 ・国立情報学研究所のCiNii Articlesとのシステム連携した。 ・研究季報第28巻第4号、第29巻第1号～第3号を発行した。 ・県民講座を3回実施。(10月1回、11月2回) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
[評価指標]オンラインデータ数	指標	—	80件	140件	200件	270件	340件	420件	登録件数は着実に増加している。
	実績	—	238件	361件	435件	1,490件			

※地域創造データベース(平成29年度以前)、奈良県立大学リポジトリ(平成30年度以降)への登録件数

II 研究

2 課題解決に奇与する研究活動の推進

法人の評価	A	理由	奈良とユーラシアに関する研究活動を実施した。	中期計画 年度計画 連番	50
-------	---	----	------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する

【中期計画】

研究成果を著書、論文や学会発表、また各種報告書や寄稿などによって発表し、広く社会に貢献します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
問題解決に必要な研究所を大学内に設置	ユーラシア研究センターにおいて奈良とユーラシアに関する研究活動を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下記のとおり研究会を実施し、研究活動を推進した。 ①近世奈良を語る会(9回) ②谷三山研究会(9回。うち1回は公開講座形式) ③近世・近代の思想研究会(7回) ④ゾロアスター教研究会(1回) ・研究成果報告書(全4篇)を発行し、県内外の関係機関に頒布した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
研究会成果報告書の作成・発行	-	-	4篇 各500部	4篇 各500部	4篇 各500部			年度計画に基づき研究成果報告書を作成し、県内関係機関(県、市町村、高校、大学など)及び県外教育研究機関に頒布し、研究成果を発信した。

II 研究

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

法人の評価	A	理由	奈良とユーラシアに関する研究活動を実施した。	中期計画 年度計画 連番	51
-------	---	----	------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する

【中期計画】

奈良とユーラシアに関する研究活動に取り組み、さらに発展させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
(仮称)奈良県立大学ユーラシア研究センターの設置	ユーラシア研究センターにおいて奈良とユーラシアに関する研究活動を継続する。(50の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・下記のとおり研究会を実施し、研究活動を推進した。 <ol style="list-style-type: none"> ①近世奈良を語る会(9回) ②谷三山研究会(9回。うち1回は公開講座形式) ③近世・近代の思想研究会(7回) ④ゾロアスター教研究会(1回) ・研究成果報告書(全4篇)を発行し、県内外の関係機関に頒布した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
研究会成果報告書の作成・発行	-	-	4篇 各500部	4篇 各500部	4篇 各500部			年度計画に基づき研究成果報告書を作成し、県内関係機関(県、市町村、高校、大学など)及び県外教育研究機関に頒布し、研究成果を発信した。

II 研究

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

法人の評価	A	理由	研究成果の情報発信に積極的に取り組んだ。	中期計画 年度計画 連番	52
-------	---	----	----------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する

【中期計画】

奈良とユーラシアに関する研究活動に取り組み、さらに発展させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
研究成果を県民に還元する講演会、セミナー、シンポジウムの実施	ユーラシア研究センターの研究成果をフォーラム等の開催、情報誌の発行等を通じて情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムの開催(2回) ・公開講座形式での研究会の実施(1回) ・情報誌「EURO-NARASIA Q」Vol.11(10月末) vol.12(1月末),vol.13(3月末)の発行(各7,000部) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	奈良とユーラシアに関する研究活動とその成果を県内外に広く発信している。
	実績	未実施	1回	2回	2回	3回			

II 研究

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

法人の評価	A	理由	東アジア・サマースクールを実施した。	中期計画 年度計画 連番	53
-------	---	----	--------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する

【中期計画】

奈良とユーラシアに関する研究活動に取り組み、さらに発展させます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
東アジアサマースクールの実施	奈良県と共催で東アジア・サマースクールを実施する。	・平成30年8月19日～8月31日(13日間)東アジア・サマースクールを開催した。(参加者:3カ国・29名)	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

法人の評価

A

理由

キャリア教育として「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」を開講した。

中期計画
年度計画
連番

54

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

【中期計画】

社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材を継続的に育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
キャリア育成プログラムの開発・実施	平成30年度からキャリアデザインⅠ（前学期）、キャリアデザインⅡ（後学期）を開講する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度前学期、リベラルアーツ科目として「キャリアデザインⅠ」、夏期集中講座として「キャリアデザインⅡ」を開講した。 3年生対象「キャリア形成講座・就職対策講座」を前年度に引き続き実施した。 	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

法人の評価	S
-------	---

理由	検討準備が早期に済み、前倒しで実施できた。
----	-----------------------

中期計画 年度計画 連番	55
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

【中期計画】

社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材を継続的に育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
リカレント教育センターの相談員の配備	月1回、リカレント教育センターの相談員を配置する。(27の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> リカレント教育センターの相談員を兼任するキャリア教育担当教員を配置し相談業務を実施した。(月1回) 既卒者からのキャリア・サポート室での相談対応件数: 33件 	なし	なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
[評価指標]リカレント相談件数	指標							10件	検討準備が早期に済み、前倒しで実施できた。
	実績	実績なし	—	—	—	4件			

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

法人の評価	A	理由	奈良の魅力を伝える授業で「教養講義Ⅰ（やまとまほろば学）」、「文学（奈良と文学）」を実施した。	中期計画 年度計画 連番	56
-------	---	----	---	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する

【中期計画】

奈良の魅力を学生に伝える教育を実施し、奈良の魅力を全国に発信できる人材を育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
奈良の魅力を学生に伝える授業科目の実施	「教養講義Ⅰ（大和まほろば学）」 「文学（奈良と文学）」など奈良の魅力を学生に伝える授業科目を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教養講義Ⅰ（やまとまほろば学）」、「文学（奈良と文学）」を実施。 ・平成31年度からユーラシア研究センターで「教養講義Ⅷ（奈良文化コンテンツ論）」と「教養講義Ⅸ（奈良文化イメージ論）」の2科目の実施を決定。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
奈良の魅力を学生に伝える授業科目の開講数	2科目	2科目	2科目	2科目	2科目			文学（奈良と文学）、教養講義Ⅰ（やまとまほろば学）を実施

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

2 奈良の魅力在全国に発信できる人材の育成

法人の評価	A	理由	奈良県内におけるフィールドワーク受入先を重点的に開拓した。	中期計画 年度計画 連番	57
-------	---	----	-------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する

【中期計画】

奈良の魅力を学生に伝える教育を実施し、奈良の魅力を全国に発信できる人材を育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
奈良県内におけるフィールドワーク先の開拓	連携協定締結市町村を重点的に、フィールドワーク先の開拓を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協定先市町村において25件のフィールドワーク受入先開拓した。 ・フィールドワーク受付件数: 累計174先、県内149先(うち、連携協定先市町村において25件)、県外25先 	・なし	・SNS等を活用したフィールドワーク受入先との連携強化が課題。

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
県内団体等からのフィールドワーク受入先件数	-	64先	96先	114先	149先			県内団体等からのフィールドワーク受入先件数は良好に推移している。

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

法人の評価	A	理由	取り組みを継続し、WEBの利活用も進めている。	中期計画 年度計画 連番	58
-------	---	----	-------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する

【中期計画】

奈良の魅力を学生に伝える教育を実施し、奈良の魅力を全国に発信できる人材を育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
卒業生に対する継続的な情報発信	キャンパスジャーナルの配信等卒業生に対して継続的に情報を発信する。	・大学広報誌「キャンパスジャーナル」と地(知)の拠点整備事業情報誌「コモンズ」を統合した「Narapu」第1号(10月)、第2号(3月)を発刊(HPIに掲載しオンラインジャーナルとしてWEBでの閲覧にて対応)。ホームカミングデー(10月)で配布するなど卒業生に対する情報発信を行った。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
ホームカミングデー参加者数	59名	74名	開催なし	78名	58名			10月にホームカミングデーを実施した。

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

法人の評価

A

理由

ホームカミングデーに協力した。

中期計画
年度計画
連番

59

【中期目標】 期待する成果

県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する

【中期計画】

奈良の魅力を学生に伝える教育を実施し、奈良の魅力を全国に発信できる人材を育成します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
卒業後のネットワークの構築(ホームカミングデーの実施など)	同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、卒業後のネットワーク構築を進める。	・同窓会が開催するホームカミングデーの運営に、在学生も協力した。(10月)	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

3 地域の学校(大学・高等学校)間の連携による地域貢献

法人の評価	A	理由	連携事業を複数回にわたり継続して実施することで質向上に結び付いた。	中期計画 年度計画 連番	60
-------	---	----	-----------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域の学校間の連携を通じて、大学の使命である地域づくりへの貢献を実現する

【中期計画】

他大学、高等学校など地域の学校間の連携を強化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
高等学校との連携事業により、高校での模擬授業等を実施	「出前講座」制度等を活用し、高等学校との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員紹介」と「出前講義案内」をまとめたシーズ集「教員データベース」を発刊し、県下の全高校に配布し広報に努めた。 ・西の京高校で「模擬授業」を実施した。(10月) ・育英西高校と連携し、高校生に対する「模擬授業」を3回(高校で1回、本学で2回)実施した。 ・平城高校と協働で調査研究を実施した。 ・二階堂高校と連携し、講義やパネルディスカッションを実施した(高校で1回、本学で2回)。 ・津西高校で講義をおこなった(高校で2回)。 	・なし	・県内高等学校への広報活動を強化する。

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕高大連携事業による実施校数	指標		3校	3校	3校	4校	4校	4校	事業実施校数は良好に推移している。
	実績	3校	3校	3校	3校	5校			
高大連携事業による事業回数		-	3回	3回	3回	10回			事業実施回数は増加している。連携先高校との継続的な事業実施ができています。

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	県民講座を3回実施した。
----	--------------

中期計画 年度計画 連番	61
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県民(市民)講座の開催回数 の増加	県民(市民)講座を年3回以上開催する。	・県民講座を3回実施した(10月1回、11月2回)。 (第1回:10月25日 西尾美也准教授 45名、第2回:11月15日 北岡伸一理事長 350名、第3回:11月29日 上田恵美子講師 23名)	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県民(市民)講座 開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	
	実績		年2回	年2回	年2回	年3回	年3回		
〔評価指標〕県民(市民)講座 受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数は増加傾向にある。
	実績		30人	115人	209人	157人	418人		

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	県民講座をホームページ等を活用した情報発信を行い、受講者にはアンケートを実施し、ニーズの把握に努めた。
----	---

中期計画 年度計画 連番	62
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県民のニーズに応じた講座開催と開催情報の発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> 受講者へのアンケート調査等により県民のニーズに応じた講座を開催する。 ホームページ等を活用して開催情報の発信を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講座実施時にアンケートを行い、ニーズの把握に努めた。 県民講座実施前にはホームページ等で情報を発信し、「県民だより奈良」10月号に第2回県民講座について掲載した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	開催回数は2～3回の実施となっている。
	実績		年2回	年2回	年2回	年3回	年3回		
〔評価指標〕県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数は増加傾向にある。
	実績		30人	115人	209人	157人	418人		

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A	理由	新たに「地域活動報告会」を実施した。	中期計画 年度計画 連番	63
-------	---	----	--------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県民向けに協働プロジェクトの成果等を発表するセミナーの開催	各コモンズ等に働きかけ、連携協定先との協働プロジェクトの発表会等を開催する。	・学生による「地域活動報告会」を開催し、連携協定先や地域の方々100名近くが聴講した。(1月)。	・なし	・定期的な情報発信が課題である。

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
協働プロジェクト等報告会の聴講者数	-	-	-	-	100名			平成30年度より開催し、好評を得た。

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	「シーズ集」を発刊し、出前講義を実施した。
----	-----------------------

中期計画 年度計画 連番	64
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
教員による県民の希望に応じた出前講義の実施	「シーズ集」を作成・活用し、広報を強化することで、県民のニーズに応える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員紹介」と「出前講義案内」をまとめたシーズ集『教員データベース』を発刊、8月に開催された『ならの教育応援隊』研修にて参加者に配布した。 ・出前講義を9回実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕出前講座開催回数	指標		6回	6回	7回	7回	8回	8回	
	実績	3回	6回	7回	9回	9回			
〔評価指標〕出前講座受講者数	指標		260人	280人	300人	320人	340人	360人	回数、受講者数とも良好かつ安定して推移している。
	実績	126人	510人	347人	569人	448人			

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	科目等履修生の受け入れを実施した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	65
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
大学の講義科目への科目等履修生の積極的受入	大学の講義科目へ科目等履修生を積極的に受け入れる。	・1名の科目等履修生を受け入れた。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
科目等履修生の受入数	1名	2名	3名	2名	1名			科目等履修生の受入は、少人数で推移している。

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価	A
-------	---

理由	平成31年度に新講座を開講し、定員を増加することを決定した。
----	--------------------------------

中期計画 年度計画 連番	66
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
奈良県立大学シニアカレッジの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学シニアカレッジを3会場で実施する。 ・受講生へのアンケート等に基づき、開講講座等について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度奈良県立大学シニアカレッジを実施した。受講生：1,016人 会場：本校(奈良県立大学)、中南和分校(県社会福祉総合センター)および西和分校(王寺町地域交流センター) ・平成31年度に向けて新たな講座を開講および講座を増設し、定員300人増を決定した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕シニアカレッジ受講者数	指標		600人	600人	600人	600人	600人	600人	
	実績	492人	647人	811人	817人	1,016人			

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

法人の評価

A

理由

東アジア・サマースクールを実施した。

中期計画
年度計画
連番

67

【中期目標】 期待する成果

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

【中期計画】

県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
東アジアサマースクールの実施	奈良県と共催で東アジア・サマースクールを実施する。(53の再掲)	・平成30年8月19日～8月31日(13日間)東アジア・サマースクールを開催した。(参加者:3カ国・29名)	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【教育関連】

5 社会人の学び直しの機会の提供

法人の評価

A

理由

国および他大学等へ聞き取りを行うなど検討を進めた。

中期計画
年度計画
連番

68

【中期目標】 期待する成果

社会人に大学での学び直す機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもら

【中期計画】

県民(市民)講座等の提供だけでなく、社会人が大学で学び直す機会を提供するためフレックス(夜間)コースの開設を検討します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
フレックス(夜間)コースの検討	平成31年度実施に向けて準備を進める。	・国および他大学等へ聞き取りを行うなど検討を進めたが、事業の内容および実施の手法について課題が残った。	・なし	・事業の内容および実施の手法

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

法人の評価	A
-------	---

理由	奈良県立大学リポジトリへの登録数が増加した。
----	------------------------

中期計画 年度計画 連番	69
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する

【中期計画】

地域創造データベースを構築・稼働し、映像メディア等を活用します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域創造データベースの充実	奈良県立大学リポジトリのコンテンツの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学リポジトリを公開した。(4月) ・奈良県立大学リポジトリの追加登録数1,055件 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
【評価指標】オンラインデータ数	指標	—	80件	140件	200件	270件	340件	420件	登録件数は着実に増加している。
	実績	—	238件	361件	435件	1,490件			

※地域創造データベース(平成29年度以前)、奈良県立大学リポジトリ(平成30年度以降)への登録件数

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

法人の評価	A	理由	奈良県立大学リポジトリでの論文ダウンロード件数が増加した。	中期計画 年度計画 連番	70
-------	---	----	-------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する

【中期計画】

地域創造データベースを構築・稼働し、映像メディア等を活用します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域創造データベースの広報に努め、県民の利用を促進	奈良県立大学リポジトリの広報に努め、県民の利用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 国立情報学研究所のCiNii Articlesとのシステム連携した。 奈良県立大学リポジトリでの論文ダウンロード件数：108,633件 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
オンラインデータのダウンロード数	-	17,674件	13,929件	23,033件	108,633件			ダウンロード数は着実に増加している。

※地域創造データベース(平成29年度以前)、奈良県立大学リポジトリ(平成30年度以降)への登録データのダウンロード数

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

法人の評価	A	理由	県内2自治体と連携協定を締結した。	中期計画 年度計画 連番	71
-------	---	----	-------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として対応しい機能を備えた大学となる

【中期計画】

大学の資源を活用して、市町村・地域団体・企業・NPO等との協働による課題解決型プロジェクトを推進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
市町村等との連携協定の推進	市町村等および県内企業との連携協定の締結を進める。(3の再掲)	・「三宅町」「五條市」と連携協定を締結した。(地域連携関連:累計30件、うち県内29件)	・なし	・協定締結先との連携を強化する。

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数	指標		18先	19先	20先	21先	22先	23先	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、目標を上回っている。
	実績	17先	21先	22先	27先	29先			

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

法人の評価	A	理由	市町村等における課題を解決するため、種々協働プロジェクトを実施した。	中期計画 年度計画 連番	72
-------	---	----	------------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として対応しい機能を備えた大学となる

【中期計画】

大学の資源を活用して、市町村・地域団体・企業・NPO等との協働による課題解決型プロジェクトを推進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
協働プロジェクトの実施	市町村等のニーズ把握に努め、コモンズとの連携調整等マッチングに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに基づいたプロジェクトである宇陀市の農業体験や地元の佐保まつり等に参加することで、地域住民との交流ができた。 市町村等のニーズ把握により、教員との連携調整等マッチングに努め、協働プロジェクトを実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕協働プロジェクトの取組実績	指標		15件	17件	19件	21件	23件	25件	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、良好に推移している。
	実績	9件	43件	44件	38件	25件			

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

法人の評価

A

理由

内部評価及び外部評価を実施した。

中期計画
年度計画
連番

73

【中期目標】 期待する成果

市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる

【中期計画】

大学の資源を活用して、市町村・地域団体・企業・NPO等との協働による課題解決型プロジェクトを推進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
プロジェクトの質の検証	計画・評価委員会及び外部評価により、協働プロジェクトの質を検証する。	・内部評価及び外部評価を実施した。	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

法人の評価	A	理由	コモンズゼミ、フィールドワーク等により学生の実践的な課題解決能力を育成を行った。	中期計画 年度計画 連番	74
-------	---	----	--	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる

【中期計画】

大学の資源を活用して、市町村・地域団体・企業・NPO等との協働による課題解決型プロジェクトを推進します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
コモンズゼミにおけるPBL(Project-based-Learning)教育、フィールドワーク等による学生の実践的な課題解決能力を育成	コモンズゼミにおけるPBL教育、フィールドワーク等により学生の実践的な課題解決能力を育成する。	・コモンズゼミ、フィールドワーク等の実施により学生の実践的な課題解決能力を育成を行った。	・なし	・なし

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

8 研究成果等の地域への還元

法人の評価	A
-------	---

理由	学長裁量経費による研究を採択した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	75
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

【中期計画】

地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域に貢献できる研究テーマの設定	学長裁量による競争的研究資金を実施する。(48の再掲)	・学長裁量による競争的研究費を公募し、1件を採択した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
学長裁量経費助成件数	-	2件	1件	1件	1件			着実に研究を行っている。

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

8 研究成果等の地域への還元

法人の評価	A	理由	学長裁量経費による研究を採択した。	中期計画 年度計画 連番	76
-------	---	----	-------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

【中期計画】

地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域貢献に関する研究を行う研究者への支援の充実	学長裁量による競争的研究資金を実施する。(48の再掲)	・学長裁量による競争的研究費を公募し、1件を採択した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
学長裁量経費助成件数	-	2件	1件	1件	1件			着実に研究を行っている。

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

8 研究成果等の地域への還元

法人の評価	A
-------	---

理由	奈良県立大学リポジトリへの論文の追加登録が進み、国立情報学研究所とのシステム連携がはかられた。
----	---

中期計画 年度計画 連番	77
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

【中期計画】

地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
研究会・シンポジウム等を通じた研究成果の地域への還元	研究季報(年4回)の発行、研究論文の奈良県立大学リポジトリ等への掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する。(49の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学リポジトリを公開した。(4月) ・奈良県立大学リポジトリへの追加論文登録数 516件 ・国立情報学研究所のCiNii Articlesとのシステム連携した。 ・研究季報第28巻第4号、第29巻第1号～第3号を発行した。 ・県民講座を3回実施。(10月1回、11月2回) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
[評価指標]オンラインデータ数	指標	—	80件	140件	200件	270件	340件	420件	
	実績	—	238件	361件	435件	1,490件			

※地域創造データベース(平成29年度以前)、奈良県立大学リポジトリ(平成30年度以降)への登録件数

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

8 研究成果等の地域への還元

法人の評価	A	理由	地(知)の拠点整備事業広報誌を継続的に発行した。	中期計画 年度計画 連番	78
-------	---	----	--------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

【中期計画】

地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地(知)の拠点整備事業広報誌の発行	地(知)の拠点整備事業広報誌を継続的に発行する。	・既存の「キャンパスジャーナル」と統合した広報誌「Narapu」を2回(10月、3月)発行し、広報強化に努めた。(発行:各7,000部)	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
地(知)の拠点整備事業広報誌の発行回数	3回	3回	3回	3回	2回			「キャンパスジャーナル」との統合により発行回数は減少したが、部数を増加し内容を充実させた。

Ⅲ 地域貢献【研究関連】

8 研究成果等の地域への還元

法人の評価	A
-------	---

理由	奈良県立大学リポジトリへの論文の追加登録が進み、国立情報学研究所とのシステム連携がはかられた。
----	---

中期計画 年度計画 連番	79
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

【中期計画】

地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
研究季報等を通じた研究成果の発信	研究季報(年4回)の発行、研究論文の奈良県立大学リポジトリ等への掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する。(49の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学リポジトリを公開した。(4月) ・奈良県立大学リポジトリへの追加論文登録数 516件 ・国立情報学研究所のCiNii Articlesとのシステム連携した。 ・研究季報第28巻第4号、第29巻第1号～第3号を発行した。 ・県民講座を3回実施。(10月1回、11月2回) 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
[評価指標]オンラインデータ数	指標	—	80件	140件	200件	270件	340件	420件	登録件数は着実に増加している。
	実績	—	238件	361件	435件	1,490件			

※地域創造データベース(平成29年度以前)、奈良県立大学リポジトリ(平成30年度以降)への登録件数

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

9 学生の地域貢献

法人の評価	A	理由	学生の研究活動等を効果的に支援できた。	中期計画 年度計画 連番	80
-------	---	----	---------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する

【中期計画】

学生がフィールドワーク等を通じて地域に貢献できるよう支援体制を整えます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生の研究活動が円滑に進むための支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センターにおいてフィールドワーク先の開拓や学生とのマッチングを行う等学生の研究活動に対する支援体制を充実する。 ・海外連携協定校への認定留学生に対する費用助成を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内を中心に35先のフィールドワーク受入先を開拓した。(フィールドワーク受付件数:累計174先、県内149先、県外25先) ・より一層質の高いフィールドワークの開拓に努めた。 ・学生のニーズをヒアリングし適切なフィールドワーク活動先とのマッチングに努めた。 ・海外協定校への派遣留学生に対して費用助成を実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
フィールドワーク受入先件数	-	-	-	138先	174先			フィールドワークの受入先件数は良好に推移している。

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

9 学生の地域貢献

法人の評価	A	理由	学生の求めるボランティア活動を円滑に行えるよう支援した。	中期計画 年度計画 連番	81
-------	---	----	------------------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する

【中期計画】

学生がフィールドワーク等を通じて地域に貢献できるよう支援体制を整えます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生ボランティア活動に対するサポート	地域交流センターにおいて、学生のボランティア活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、学生の活動取材を兼ねて、現地に帯同し、内容の検証を行った。 ・ボランティアの活動内容を把握した上で、学生に斡旋する体制を確立した。 	・なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動と学生の学びとの関わりを検証し、質の向上を図る

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

法人の評価	A
-------	---

理由	市町村等における課題を解決するため、種々協働プロジェクトを実施した。
----	------------------------------------

中期計画 年度計画 連番	82
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む

【中期計画】

大学として県内の自治体、地域団体、企業、NPO等と連携して研究会・シンポジウム等を開催します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県内の自治体、地域団体、NPO等と連携した地域の課題解決への取組	市町村等のニーズ把握に努め、コモンズとの連携調整等マッチングに努める。(72の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに基づいたプロジェクトである宇陀市の農業体験や地元の佐保まつり等に参加することで、地域住民との交流ができた。 市町村のニーズ把握に努め、教員との連携調整等マッチングに努め、種々協働プロジェクトを実施した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕協働プロジェクトの取組実績	指標		15件	17件	19件	21件	23件	25件	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、良好に推移している。
	実績	9件	43件	44件	38件	25件			

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

法人の評価	A	理由	新たに「地域活動報告会」を実施した。	中期計画 年度計画 連番	83
-------	---	----	--------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む

【中期計画】

大学として県内の自治体、地域団体、企業、NPO等と連携して研究会・シンポジウム等を開催します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
得られた成果について研究会・シンポジウム等で地域に還元	各コモンズ等に働きかけ、連携協定先との協働プロジェクトの発表会等を開催する。(63の再掲)	・学生による「地域活動報告会」を開催し、連携協定先や地域の方々100名近くが聴講した。(1月)。	・なし	・定期的な情報発信が課題である。

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
協働プロジェクト等報告会の聴講者数	—	—	—	—	100名			平成30年度より開催し、好評を得た。

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

法人の評価	A	理由	県内企業との連携事業を実施した。	中期計画 年度計画 連番	84
-------	---	----	------------------	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む

【中期計画】

大学として県内の自治体、地域団体、企業、NPO等と連携して研究会・シンポジウム等を開催します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県内企業との協力関係の強化	県内企業との連携協定の締結を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本旅館協会関西支部連合会協力のもと、旅館独自のホスピタリティーの講義及び実地見学を観光創造コンゼミにおいて実施した。(10月) ・県内の老舗旅館や関西電力等の企業とともに学生たちが学ぶ場を設けた。 	・なし	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業との連携を強化する。

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
県内企業等連携協定数	7先	7先	7先	7先	9先			県内企業及びその関連団体との連携を強化し、企業と学生が共に学ぶ場を継続的に設けていく必要がある

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

11 地域交流拠点の活用(協働サロン等)

法人の評価	A
-------	---

理由	協働サロンを継続的に開放した。
----	-----------------

中期計画 年度計画 連番	85
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む

【中期計画】

平成25年度に設置した協働サロン及び地域サテライトを継続的に活用することにより地域との交流を活性化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
協働サロン及び地域サテライトの継続的な開放	協働サロンの利活用を推進する。	・協働サロンを継続的に開放した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人	これまでの活動が認知され目標を大きく上回っている。
	実績	804人	706人	975人	682人	995人			
協働サロン利用回数		-	204回	240回	219回	242回			ほぼ順調に推移している。

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

11 地域交流拠点の活用(協働サロン等)

法人の評価	A
-------	---

理由	安定的に利活用がなされている。
----	-----------------

中期計画 年度計画 連番	86
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む

【中期計画】

平成25年度に設置した協働サロン及び地域サテライトを継続的に活用することにより地域との交流を活性化します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
大学ホームページや各種メディアを活用して協働サロン及び地域サテライトをPR	大学ホームページや各種メディアを活用して協働サロンをPRする。	・大学ホームページやSNS等で、協働サロンを活用した事業を掲載し、広報に努めた。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人	
	実績	804人	706人	975人	682人	995人			

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

法人の評価	A
-------	---

理由	県民に開かれた大学を目指すため、種々イベントを実施した。
----	------------------------------

中期計画 年度計画 連番	87
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

【中期計画】

地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
地域住民に開かれた施設及び活動事業内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流棟を活用した活動事業内容を充実する。 ・施設整備基本設計及び実施設計に向け、地域に開かれた施設の整備について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流棟にて、シニアカレッジ(通年)、東アジア・サマースクール(8月)などを実施した。 ・施設整備について、コモンズ棟の実施設計が策定され、地域に開かれた施設の整備について適時検討した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数も着実に増加している。回数増が課題である。
	実績	30人	115人	209人	157人	418人			
〔評価指標〕協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人	これまでの活動が認知され目標を大きく上回っている。
	実績	804人	706人	975人	682人	995人			

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

法人の評価	A
-------	---

理由	大学ホームページのほか、各種メディアを活用したPR活動を実施した。
----	-----------------------------------

中期計画 年度計画 連番	88
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

【中期計画】

地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
大学ホームページや各種メディアを活用して大学の施設及び活動事業をPR	大学ホームページや各種メディアを活用して大学の施設及び活動事業をPRする。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学説明会、県民講座、シニアカレッジ、ユーラシア研究センターフォーラム、東アジア・サマースクールなどや各種イベント情報について大学ホームページにより受講者募集及び実施結果報告を行った。また、併せて、報道機関等への情報提供を行い積極的なPRを実施した。 ・大学の地域との連携状況や学生の地域での活動について、ホームページや広報誌に掲載、SNS等も活用し広報に努めた。 ・「Narapu」をホームカミングデーで配布した(10月)。 	・なし	・有効なメディアの活用方法を検討する。

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
大学ホームページのアクセス数	-	-	-	380,362件	414,074件			昨年度に比べると増加した。(平成28年度以前は旧システムのため集計不可)

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

法人の評価	A
-------	---

理由	県民講座を3回実施した。
----	--------------

中期計画 年度計画 連番	89
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

【中期計画】

地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県民(市民)講座の開催回数の増加	県民(市民)講座を年3回以上開催する。(61の再掲)	・県民講座を3回実施した(10月1回、11月2回)。 (第1回:10月25日 西尾美也准教授 45名、第2回:11月15日 北岡伸一理事長 350名、第3回:11月29日 上田恵美子講師 23名)	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	
	実績	年2回	年2回	年2回	年3回	年3回			
〔評価指標〕県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数は増加傾向にある。
	実績	30人	115人	209人	157人	418人			

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

法人の評価	A
-------	---

理由	多数の県民向けイベントを実施した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	90
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

【中期計画】

地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
開放施設を活用した県民向けイベントの開催	県民開放施設を活用して県民向けイベントを開催する。	・地域交流棟や3号館を活用し、シニアカレッジ、東アジア・サマースクール、ユーラシア研究センターフォーラム、県民講座等多数の県民向けイベントを実施した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	
	実績	年2回	年2回	年2回	年3回	年3回			
〔評価指標〕県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数は増加傾向にある。
	実績	30人	115人	209人	157人	418人			

Ⅲ 地域貢献【地域交流関連】

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

法人の評価	A
-------	---

理由	地元自治会等に貸出を行った。
----	----------------

中期計画 年度計画 連番	91
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

【中期計画】

地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
貸館事業の実施	県民開放施設を貸し出し、地域との交流を深める。	・地元自治会等に貸出を行った。(26件)	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
施設貸出回数	-	-	11件	8件	26件			地元自治会、NPO等に貸し出した。

IV 国際交流

1 学生の国際交流

法人の評価	A
-------	---

理由	福井大学と連携協定を締結し、テキサス大学との交換留学について協議したほか、質の向上のため学術交流協定の内容見直しについて検討を行った。
----	---

中期計画 年度計画 連番	92
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生レベルの国際交流を充実する

【中期計画】

海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
海外大学との学生交流協定(授業料免除を含む)の締結の推進	海外大学との学生交流協定(授業料免除を含む)の締結を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 海外学術交流協定締結のあり方について国際交流委員会において方針を決定した。 福井大学国際地域学部と連携協定を締結し、テキサス大学との交換留学について協議した。(5月) ポートランド州立大学への英語研修留学について協議した。 海外大学との学術交流協定の内容を見直す等、質の向上について検討を行った。 	なし	なし

◆実績

項目			H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕 留学生受入数	交換留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人	6人	
		実績	5人	5人	5人	5人	7人			
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人	5人	
		実績	0人	0人	14人	17人	18人			
〔評価指標〕 留学生派遣数	交換留学	指標		2人	2人	2人	3人	3人	3人	派遣留学生数は順調に推移している。
		実績	6人	3人	2人	8人	10人			
	短期留学	指標		7人	8人	9人	10人	11人	12人	
		実績	7人	13人	6人	10人	13人			
〔評価指標〕連携協定締結校数	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校	締結校数は指標を上回っている。	
	実績	7校	9校	12校	15校	17校				

IV 国際交流

1 学生の国際交流

法人の評価	A	理由	留学生に対する家賃補助の継続及びチューター等による定期的な相談、各種フォローアップを実施した。	中期計画 年度計画 連番	93
-------	---	----	---	--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生レベルの国際交流を充実する

【中期計画】

海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
海外大学からの留学生に対する住居等環境整備や生活相談等支援制度の充実	・留学生宿舎として民間住宅を借り上げ、家賃補助を継続して実施する。 ・教員と国際交流室が留学生に対する相談を実施する。学生チューターに関しては、海外留学経験者が担当となるように配慮を行う。	・留学生宿舎として、民間住宅を借り上げ、家賃補助を実施した。(上半期:3名、下半期:6名) ・教員と国際交流室が留学生に対する相談を実施し、留学生1人に対して海外留学経験者の学生チューター1人を担当とした。	・なし	・なし

◆実績

項目			H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕留 学生受入数	交換留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人	6人	
		実績	5人	5人	5人	5人	7人			
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人	5人	
		実績	0人	0人	14人	17人	18人			
留学生チューター数			5人	7人	7人	7人	9人			留学生数に応じたチューターが確保されている。
留学生宿舎家賃補助件数			0人	5人	7人	7人	7人			交換留学生全員に家賃補助が行われている。

IV 国際交流

1 学生の国際交流

法人の評価	A
-------	---

理由	ネイティブ講師による英語授業及び英語アドバンスト授業、e-caféやスピーチコンテストを実施した。
----	---

中期計画 年度計画 連番	94
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生レベルの国際交流を充実する

【中期計画】

海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します。
--

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生に対する実践的な語学教育の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンストによる観光英語・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を継続して実施する。 ・e-caféにネイティブ講師を招き、実践的な英語を身につけさせる。 ・スピーチコンテストを実施する。(10の再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンストによる観光・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を継続して実施した。 ・e-caféにネイティブ講師を招き、実践的な英会話等を実施した。 ・英語スピーチコンテストを実施した(12月)。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
ネイティブ講師の開講数	4科目	4科目	4科目	4科目	4科目			英語Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅷの4科目で実施
ネイティブ講師の履修学生数	-	-	-	-	495人			4科目5クラスで実施(平成30年度より実績把握)

IV 国際交流

1 学生の国際交流

法人の評価	A
-------	---

理由	留学に関するオリエンテーションを行い、情報提供及び指導を実施した。また、派遣留学生に対する費用助成を行った。
----	--

中期計画年度計画連番	95
------------	----

【中期目標】 期待する成果

学生レベルの国際交流を充実する

【中期計画】

海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します。
--

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
学生に対する留学相談、情報提供、留学費用助成等留学支援制度の充実	・留学相談、情報提供等本学学生の海外留学を支援する。 ・海外協定校への認定留学に対して助成を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 海外協定校への留学についてオリエンテーションを実施。(4月:20名、11月:12名) 留学相談には随時対応し、本学学生への情報提供を行った。 海外協定校への派遣留学生に対して費用助成を実施した。 海外インターンシップについてオリエンテーションを実施した。(10月:7名) 	・なし	・なし

◆実績

項目			H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕留学生受入数	交換留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人	6人	
		実績	5人	5人	5人	5人	7人			
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人	5人	
		実績	0人	0人	14人	17人	18人			
〔評価指標〕留学生派遣数	交換留学	指標		2人	2人	2人	3人	3人	3人	派遣留学生数は順調に推移している。
		実績	6人	3人	2人	8人	10人			
	短期留学	指標		7人	8人	9人	10人	11人	12人	
		実績	7人	13人	6人	10人	13人			
留学説明会件数			-	-	-	-	-			(平成31年度から実績を把握)

IV 国際交流

1 学生の国際交流

法人の評価

A

理由

東アジアサマースクールを実施し、単位化を行った。

中期計画
年度計画
連番

96

【中期目標】 期待する成果

学生レベルの国際交流を充実する

【中期計画】

海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
東アジアサマースクールの実施と単位化の検討	東アジア・サマースクールを開催するとともに、教養講義Ⅱ（東アジアと日本）として単位化する。（7の再掲）	・東アジア・サマースクールを単位化した教養講義Ⅱ（東アジアと日本）を実施。	・なし	・なし

IV 国際交流

2 教員の国際交流

法人の評価	A
-------	---

理由	海外学術交流協定締結の内容を見直す等、質の向上について検討を行った。
----	------------------------------------

中期計画 年度計画 連番	97
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上

【中期計画】

海外大学との共同研究、共同発表、シンポジウム等を開催し、海外の研究者との交流を深めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
海外大学との学術交流協定の締結の推進	海外大学との学術交流協定の締結を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 海外学術交流協定締結のあり方について国際交流委員会において方針を決定した。 海外大学との学術交流協定の内容を見直す等、質の向上について検討を行った。 	なし	なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	交流支援の充実により、開催数は指標を上回っている。
	実績	4回	6回	6回	8回	9回			
〔評価指標〕連携協定締結校数	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校	締結校数は指標を上回っている。
	実績	7校	9校	12校	15校	17校			

IV 国際交流

2 教員の国際交流

法人の評価	A
-------	---

理由	講演会及びセミナーを2回実施した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	98
--------------------	----

【中期目標】 期待する成果

大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上

【中期計画】

海外大学との共同研究、共同発表、シンポジウム等を開催し、海外の研究者との交流を深めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
国際的な学術研究活動に貢献できる研究者の確保、養成及び学内支援体制の整備	海外大学との研究交流等国際的な学術研究活動に取り組む。	・サザンクロス大学と連携(5月)、JETRO奈良より講師を招聘(1月)した奈良県立大学国際セミナー等を実施した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	交流支援の充実により、開催数は指標を上回っている。
	実績	4回	6回	6回	8回	9回			
〔評価指標〕連携協定締結校数	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校	締結校数は指標を上回っている。
	実績	7校	9校	12校	15校	17校			
海外連携協定校との交流件数		-	-	-	2校	5校			交流件数は増加している。

IV 国際交流

3 国際交流組織体制の整備

法人の評価

A

理由

ホームページの多言語化の内容の充実について検討を行った。

中期計画
年度計画
連番

99

【中期目標】 期待する成果

海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る

【中期計画】

連携協定等の締結等海外大学との連携を深めるための基盤を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
外国語版ホームページの充実など海外に向けた情報発信	ホームページの多言語化の内容の充実を図り、海外に向けて情報発信する。	・ホームページの多言語化の内容の充実について引き続き検討を行った。	・なし	・なし

IV 国際交流

3 国際交流組織体制の整備

法人の評価	A
-------	---

理由	講演会及びセミナーを2回実施した。
----	-------------------

中期計画 年度計画 連番	100
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る

【中期計画】

連携協定等の締結等海外大学との連携を深めるための基盤を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
海外大学との交流活動に貢献できる教職員の確保、養成	海外大学との研究交流等国際的な学術研究活動に取り組む。(98の再掲)	・サザンクロス大学と連携(5月)、JETRO奈良より講師を招聘(1月)した奈良県立大学国際セミナー等を実施した。	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	交流支援の充実により、開催数は指標を上回っている。
	実績	4回	6回	6回	8回	9回			
〔評価指標〕連携協定締結校数	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校	締結校数は指標を上回っている。
	実績	7校	9校	12校	15校	17校			
海外連携協定校との交流件数		-	-	-	2校	5校			交流件数は増加している。

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

1 ガバナンス体制の充実強化

法人の評価	A
-------	---

理由	SD研修会を実施し、職員の資質能力の向上を図った。
----	---------------------------

中期計画 年度計画 連番	101
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る

【中期計画】

法人及び大学のガバナンス体制を充実強化し、理事長及び学長がリーダーシップを発揮できる環境を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
理事長・学長がリーダーシップを発揮できる法人組織体制の整備	(平成27年度に完了) ・SD研修会を実施して、職員の資質能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・SD研修会を実施した。(8月) テーマ:「国立大学法人の内部統制・整備・運用に関する研修」 ・SD研修会を実施した。(9月) テーマ:「教職協働体制の構築について」 	・なし	・なし

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

1 ガバナンス体制の充実強化

法人の評価	A
-------	---

理由	重要事項の理事会等での審議のほか、運営調整会議を開催し、機動的な法人運営を行った。
----	---

中期計画 年度計画 連番	102
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る

【中期計画】

法人及び大学のガバナンス体制を充実強化し、理事長及び学長がリーダーシップを発揮できる環境を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
理事長を補佐する理事会等の運営方法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、経営審議会及び教育研究審議会を開催して法人の重要事項を審議する。 ・機動的な法人運営を行うための調整・情報交換組織として運営調整会議を毎月開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の重要事項について理事会、経営審議会及び教育研究審議会を開催し重要事項の審議を行った。 ・運営調整会議を毎月開催し、機動的な法人運営を実施した。 	・なし	・なし

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

1 ガバナンス体制の充実強化

法人の評価	-
-------	---

理由	-
----	---

中期計画 年度計画 連番	103
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る

【中期計画】

法人及び大学のガバナンス体制を充実強化し、理事長及び学長がリーダーシップを発揮できる環境を整備します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
リーダーシップのある学長を選べる選考方法の確立	(平成27年度に完了)	(平成27年度に完了)	-	-

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

2 同窓会・後援会との連携

法人の評価	A
-------	---

理由	同窓会・後援会の連携・交流を実施した。
----	---------------------

中期計画 年度計画 連番	104
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る

【中期計画】

同窓会・後援会との連携・交流を強化し、卒業生・保護者が母校愛をもって本学の活動に協力していただける体制づくりに努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
同窓会・後援会との協働事業の実施など連携・交流の強化	同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、卒業後のネットワーク構築を進める。	・同窓会が開催するホームカミングデーの運営に、在学生も協力した。(10月)	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
ホームカミングデー実施回数	1回	1回	1回	1回	1回			ホームカミングデーを10月に実施した。

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

2 同窓会・後援会との連携

法人の評価	A
-------	---

理由	同窓会・後援会との意見交換・交流を実施した。
----	------------------------

中期計画 年度計画 連番	105
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る

【中期計画】

同窓会・後援会との連携・交流を強化し、卒業生・保護者が母校愛をもって本学の活動に協力していただける体制づくりに努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
同窓会・後援会との定期的な意見交換の実施	同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、卒業後のネットワーク構築を進める。(104の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会役員会(6月)にて、後援会役員と大学教職員が意見交換を行った。 ・同窓会が開催するホームカミングデーの運営に、在学生も協力した。(10月) 	・なし	・なし

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

2 同窓会・後援会との連携

法人の評価	A
-------	---

理由	同窓会・後援会との意見交換・交流を実施した。
----	------------------------

中期計画 年度計画 連番	106
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る

【中期計画】

同窓会・後援会との連携・交流を強化し、卒業生・保護者が母校愛をもって本学の活動に協力していただける体制づくりに努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
同窓会・後援会と教職員・学生の交流を推進	同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、卒業後のネットワーク構築を進める。(104の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会役員会(6月)にて、後援会役員と大学教職員が意見交換を行った。 ・同窓会が開催するホームカミングデーの運営に、在学生も協力した。(10月) 	・なし	・なし

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

3 コンプライアンスの確保

法人の評価	-
-------	---

理由	-
----	---

中期計画 年度計画 連番	107
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る

【中期計画】

コンプライアンスの向上を図りアカウンタビリティを確保するよう組織体制を整えます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
科学研究費補助金の不正防止及び内部監査のためのコンプライアンス担当部署の体制整備	(平成27年度及び29年度に完了)	(平成27年度及び29年度に完了)	-	-

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

3 コンプライアンスの確保

法人の評価	-
-------	---

理由	-
----	---

中期計画 年度計画 連番	108
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る

【中期計画】

コンプライアンスの向上を図りアカウンタビリティを確保するよう組織体制を整えます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど人権侵害を含むコンプライアンス担当部署の体制整備	(平成27年度に完了)	(平成27年度に完了)	-	-

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

4 危機管理体制の整備

法人の評価	A
-------	---

理由	危機管理マニュアルを策定した。
----	-----------------

中期計画 年度計画 連番	109
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る

【中期計画】

危機管理に関する計画の策定、体制の整備を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
危機管理計画(防災計画を含む)の策定	危機管理体制のさらなる充実を行う。	・未策定の個別マニュアルを策定した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
火災訓練・避難訓練の実施回数	-	-	-	-	-			平成31年度より実施する

V 法人運営【組織運営と人事管理の改革】

4 危機管理体制の整備

法人の評価	A
-------	---

理由	平成31年度に火災訓練、避難訓練を行うことを決定した。
----	-----------------------------

中期計画 年度計画 連番	110
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る

【中期計画】

危機管理に関する計画の策定、体制の整備を行います。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
法人の各種リスク(不祥事、クレーム対応、事故対応等)について担当責任者、担当組織を明確化して危機管理体制を整備	危機管理体制のさらなる充実を行う。(109の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理室を設置した。 ・平成31年度より実施する火災訓練・避難防災訓練の準備を進めた。 	・なし	・なし

V 法人運営【健全な財務の構築と維持】

5 収入の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	理事会・経営審議会において法人の経営状況を把握し、方針を決定した。
----	-----------------------------------

中期計画 年度計画 連番	111
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

【中期計画】

県からの運営費用交付金に加えて外部からの受託事業等独自財源による収入を確保します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定	理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定を行う。	・理事会を3回、経営審議会を4回開催(1回は書面決議)し、決算・予算等を審議し、方針決定を行った。	・なし	・なし

V 法人運営【健全な財務の構築と維持】

5 収入の確保

法人の評価	A
-------	---

理由	独自財源の確保に努めた。
----	--------------

中期計画 年度計画 連番	112
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

【中期計画】

県からの運営費用交付金に加えて外部からの受託事業等独自財源による収入を確保します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
科学研究費補助金、市町村等からの受託事業など独自財源の確保	科学研究費補助金、市町村等からの受託事業など独自財源の確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度科学研究費補助金採択状況：12件、4,220千円 平成30年度奈良県立大学教育研究支援基金寄附金収入状況：12件、295千円 受託研究：2件、(奈良市、御杖村) 日本労働組合総連合会 奈良県連合会による寄付講座の開講について協定を締結した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
科学研究費補助金申請件数	6件	8件	9件	6件	5件			申請件数は、ほぼ横ばい状態
市町村等からの受託研究数	0件	6件	3件	1件	2件			平成30年度 奈良市1件、御杖村1件

V 法人運営【健全な財務の構築と維持】

6 経費の設減

法人の評価	A
-------	---

理由	理事会等を適切に開催し、方針決定を行った。
----	-----------------------

中期計画 年度計画 連番	113
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

【中期計画】

人件費等諸経費の節減、抑制に努めます

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定	理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定を行う。(111の再掲)	・理事会を3回、経営審議会を4回開催(1回は書面決議)し、決算・予算等を審議し、方針決定を行った。	・なし	・なし

V 法人運営【健全な財務の構築と維持】

6 経費の設減

法人の評価	A
-------	---

理由	国際交流室の一部の業務を委託することを決定した。
----	--------------------------

中期計画 年度計画 連番	114
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

【中期計画】

人件費等諸経費の節減、抑制に努めます

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
アウトソーシングの導入など人件費など諸経費の節減、抑制	アウトソーシングの導入など経費抑制方策について検討する。	・国際交流室の一部の業務委託の平成31年度予算化を図った。	・なし	・なし

V 法人運営【健全な財務の構築と維持】

7 業務の効率化

法人の評価	A
-------	---

理由	平成30年度より学務システムを稼働した。
----	----------------------

中期計画 年度計画 連番	115
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

効率的・効果的な大学経営に努める

【中期計画】

各種システムの導入やアウトソーシングを積極的に推進して業務の効率化努めます。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
各種システム(学務システム等)の導入、アウトソーシング等による業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・人事給与システム、財務会計システム及び事務系基盤システムを運用して、法人業務の効率化を図る。 ・平成30年度から学務システムを稼働する(33の再掲)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人事給与システム、財務会計システム及び事務系基盤システム、旅費システムを運用し、法人業務の効率化を図った。 ・平成30年4月より学務システムを稼働し、学生はPC・スマートフォンからWeb上で履修登録が行えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種システムの保守経費を確保すること。

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

8 法人の自己点検・評価

法人の評価	A
-------	---

理由	計画・評価委員会を開催し、自己評価および中間点検等を実施した
----	--------------------------------

中期計画 年度計画 連番	116
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

県民に信頼される法人運営を行う

【中期計画】

定期的に自己点検・評価を実施するとともに、平成29年度に大学機関別認証評価を受審します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
計画・評価委員会を活用して定期的に自己点検・評価を実施	計画・評価委員会で平成29年度及び平成30年度 年度計画の自己評価を行う。	・計画・評価委員会で、平成29年度年度計画の自己評価を実施した(6月)。また、平成30年度年度年度計画の中間点検を実施した(12月)。	・なし	・なし

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

8 法人の自己点検・評価

法人の評価	A
-------	---

理由	大学機関別認証評価での指摘事項に対して措置を講じた。
----	----------------------------

中期計画 年度計画 連番	117
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

県民に信頼される法人運営を行う

【中期計画】

定期的に自己点検・評価を実施するとともに、平成29年度に大学機関別認証評価を受審します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
平成29年度に大学機関別認証評価を受審	平成29年度に受審した大学機関別認証評価の結果、措置を講じるべき事項について、計画・評価委員会において検討のうえ措置を講じる。	・大学機関別認証評価での指摘事項に対して、シラバスの見直しや危機管理マニュアルの策定などを実施した。	・なし	・なし

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

9 法人情報の公開の推進

法人の評価	A
-------	---

理由	ホームページを利用した情報公開につとめている。
----	-------------------------

中期計画 年度計画 連番	118
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

県民に信頼される法人運営を行う

【中期計画】

法人ホームページ等を通じて積極的に法人の情報を発信します。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
ホームページの内容を定期的に見直し、法定公表情報以外の情報(法人が制定する各種規程等)についても積極的な掲載を推進	<ul style="list-style-type: none"> 法人ホームページを随時更新するとともに、法定公表情報以外の情報(法人が制定する各種規程等)についても積極的な掲載を推進する。 引き続き大学ポートレートに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 法定公表情報のほか法人が定める各種規程等を随時更新した。 引き続き大学ポートレートに参加した。 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
各種規程等の掲載数	(法人化前)	51	57	59	64			規程策定の都度、掲載している。

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

10 情報発信体制の強化

法人の評価	A
-------	---

理由	大学広報誌「Narapu」を新たに発刊し、2回発行した。
----	------------------------------

中期計画 年度計画 連番	119
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上

【中期計画】

積極的な情報戦略を展開して、大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
「(仮称)奈良県立大学 キャンパスジャーナル」の 発行	奈良県立大学キャンパスジャーナルを年2回発行する。	・大学広報誌「キャンパスジャーナル」と地(知)の拠点整備事業情報誌「コモンズ」を統合した「Narapu」第1号(10月)、第2号(3月)を発刊し(HPに掲載しオンラインジャーナルとしてWEBでの閲覧にて対応)、学生の出身校や提携先、自治体等に配布した。	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
大学広報誌の発行回数	-	2回	2回	2回	2回			「コモンズ」と統合し、内容を充実させた。

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

10 情報発信体制の強化

法人の評価	A
-------	---

理由	広報戦略を策定した。
----	------------

中期計画 年度計画 連番	120
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上

【中期計画】

積極的な情報戦略を展開して、大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
新たな大学の「ブランドイメージの構築」に向けた「戦略的広報」の実施	大学のブランドイメージの構築に向けて、広報計画を策定する。	・広報戦略を策定した。	・なし	・策定された広報戦略を実施するための方法を検討する。

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

10 情報発信体制の強化

法人の評価	A
-------	---

理由	進学情報サイトへ大学情報の掲載を行った。
----	----------------------

中期計画 年度計画 連番	121
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上

【中期計画】

積極的な情報戦略を展開して、大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
メディアへの積極的な情報提供等による大学の認知度の向上	メディアへの積極的な情報提供等により大学の認知度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 取組活動等について、メディアへの積極的な情報提供を行い、大学の認知度向上に努めた。(掲載件数76件) スタディサプリ 進路やマイナビ進学に大学情報を掲載した。 引き続き大学ポートレートに参加した。 	・なし	・なし

◆実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
〔評価指標〕メディア掲載件数	指標		55件	56件	57件	58件	59件	60件	
	実績	52件	73件	78件	82件	76件			

V 法人運営【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

10 情報発信体制の強化

法人の評価	A
-------	---

理由	県内高校への訪問やオープンキャンパス等を実施し、県内高校生の受験者の増加に努めた。
----	---

中期計画 年度計画 連番	122
--------------------	-----

【中期目標】 期待する成果

大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上

【中期計画】

積極的な情報戦略を展開して、大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上を図ります。

中期計画の取組項目	年度計画の取組項目	法人自己評価		
		平成30年度計画において、「進捗した取組」	平成30年度計画において、「進捗しなかった取組」	平成31年度以降の、「課題・問題点」
県内高校生に向け県立大学の教育内容のPRを行い、県内受験生を増やす取り組みを進める	県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める。(15の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・学長・副学長・事務局長による県内高校訪問を実施した。(29校) ・オープンキャンパス、大学説明会を実施し、入試広報に努めた。オープンキャンパス参加組数418組(前年比:1.27倍) 大学説明会参加組数83組(前年比:1.46倍) 	・なし	・なし

◆実績

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	実績の現状分析
県内受験者数	138人	125人	108人	106人	143人			県内受験者数は100名超で推移している。

【資料】 中期目標に定められた評価指標一覧

I 教育 ① 教育内容の充実

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

◆指標内容: 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差がありさらなる学生へのサポートが必要である。
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%			
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差がありさらなる学生へのサポートが必要である。
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%			
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差がありさらなる学生へのサポートが必要である。
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%			

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

◆評価指標: 実習件数、実習参加延べ学生数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
件数	指標	-	400件	800件	1,200件	1,200件	1,200件	1,200件	実習件数は指標を上回っている。
	実績		214件	948件	2,195件	2,200件			
学生数	指標	-	400人	800人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	参加学生数は指標を上回っている。
	実績		214人	948人	2,195人	2,200件			

3 リベラルアーツ教育の充実

◆評価指標: リベラルアーツ科目数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
リベラルアーツ科目数	指標		19科目	20科目	20科目	21科目	21科目	22科目	リベラルアーツ科目の充実のため指標を上回って開講している。
	実績	19科目	21科目	25科目	26科目	32科目			

4 高度な語学教育の提供

◆評価指標: TOEFLiBT65点以上の学生が全学生に占める割合

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
TOEFLiBT65点以上の学生が全学生に占める割合	指標		5%	8%	11%	14%	17%	20%	割合は横ばいとなっており指標には届いていないが、外国語習得を希望する学生は増加傾向にある。
	実績	3%	3%	4%	3%	3%			

TOEFLiBT65点に相当する点数: TOEIC600点、TOEFL CBT183点、TOEFL PBT513点

② 学生への支援

5 意欲ある学生の確保

◆評価指標: 大学PRのための高校への説明件数、入学志願倍率

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
高校への説明件数	指標		65件	68件	71件	74件	77件	80件	県内高校について、学力のレベルにあった高校を対象を絞ったため訪問件数が減少した。
	実績	56件	71件	86件	77件	65件			
入学志願倍率	指標		8.8倍	9.1倍	9.3倍	9.5倍	9.8倍	10.0倍	18歳人口減少の中において、確実に成果が上がっている。
	実績	8.6倍	8.2倍	7.7倍	7.1倍	9.2倍			

6 教育内容の評価 (教員の評価とカリキュラムの評価)

◆評価指標: 教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		18.5%	17.0%	15.5%	14.0%	12.0%	10.0%	平成30年度のカリキュラム変更により不満は解消されつつある。
	実績	19.8%	28.3%	35.9%	39.2%	23.6%			

7 学生のキャリアサポートの充実

◆評価指標: 就職率

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析	
就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持						卒業後、公務員試験に再チャレンジする学生が毎年一定数いる。	
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%				
就職サポートに不満な学生の割合	指標		23%	21%	19%	17%	15%	13%	応募書類作成、模擬面接を希望者に複数回したことで、学生自身の理解度が深まり満足度が向上したと思われる。	
	実績	25%	24%	23%	33%	19%				
リカレント相談件数	指標		実施に向けて検討・準備						10件	検討準備が早期に済み、前倒しで実施できた。
	実績	実績なし	—	—	—	4件				
企業訪問件数	指標		42件	44件	46件	48件	50件	50件	内定先や来校企業、また学生が応募している企業に訪問することで件数が増加した。	
	実績	32件	10件	46件	51件	55件				

8 学生生活へのサポート

◆評価指標: 中退率及び留年率(やむを得ない事情によるものを除く)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
中退率	指標		0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.0%	中退率は0.5~1.1%の間で推移しており、法人化前よりも減少している。
	実績	1.1%	0.5%	0.5%	0.9%	0.7%			
留年率	指標		2.0%	1.6%	1.2%	0.8%	0.4%	0.0%	留年率は2~3%の間で推移しており、法人化前よりも減少している。
	実績	3.7%	3.8%	2.6%	2.2%	2.3%			

③ 教育を支える施設整備

9 学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備

◆評価指標:施設整備構想の進捗状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析	
施設整備計画	指標		コモンズ教室8室・学生会館・ラーニングコモンズ整備							平成28年度策定の「施設整備基本計画」に基づき整備が進められている。
	実績	未整備	検討保留中	県基本計画策定	コモンズ棟基本設計	コモンズ棟実施設計				

10 図書館機能の充実・強化

◆評価指標:蔵書数、図書館利用人数、図書館貸出冊数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
蔵書数	指標		104,600冊	107,500冊	110,400冊	113,300冊	116,200冊	119,100冊	蔵書数は増加している。
	実績	107,360冊	109,432冊	111,017冊	112,788冊	114,140冊			
図書館利用人数	指標		16,300人	17,300人	18,300人	19,300人	20,300人	21,300人	平成29年度より利用人数の増加がみられる
	実績	18,701人	18,966人	18,108人	19,184人	21,711人			
図書館貸出冊数	指標		5,900冊	6,100冊	6,200冊	6,400冊	6,500冊	6,700冊	平成29年度より利用人数あたりの貸出冊数の増加がみられる
	実績	6,643冊	7,776冊	7,527冊	11,606冊	14,094冊			

II 研究

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

◆評価指標:科学研究費補助金の採択件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
科学研究費補助金の採択件数	指標		10件	10件	11件	11件	12件	12件	申請件数(科研費代表分。㊸6件→㊸5件)に大きな変化はないが、採択数が減っている。
	実績	21件	25件	21件	16件	12件			

2 課題解決に寄与する研究活動の推進

◆評価指標:学術論文相当、学会発表等件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
学術論文相当	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件	年によるバラツキはあるが、研究成果の発信を行っている。
	実績	37件	19件	18件	23件	35件			
学会発表等	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件	年によるバラツキはあるが、研究成果の発信を行っている。
	実績	88件	36件	23件	32件	38件			

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

◆評価指標: 研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	奈良とユーラシアに関する研究活動とその成果を県内外に広く発信している。
	実績	未実施	1回	2回	2回	3回			

Ⅲ 地域貢献 ① 教育関連

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

◆評価指標: 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差があり、さらなるキャリア形成支援が必要である。
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%			
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差があり、さらなるキャリア形成支援が必要である。
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%			
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%	学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差があり、さらなるキャリア形成支援が必要である。
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%			

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

◆評価指標: 奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		5.5%	5.0%	4.5%	4.0%	3.5%	3.0%	不満な割合は増加したが、31年度より新たに2科目開講することを決定した。
	実績	6.2%	5.4%	4.8%	6.3%	11.3%			

3 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

◆評価指標: 高大連携事業による実施校数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
高大連携事業による実施校数	指標		3校	3校	3校	4校	4校	4校	事業実施校数は良好に推移している。
	実績	3校	3校	3校	3校	5校			

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

◆評価指標：県民に対する生涯学習の機会の提供

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	開催回数は2～3回の実施となっている。
	実績	年2回	年2回	年2回	年3回	年3回			
県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数は増加傾向にある。
	実績	30人	115人	209人	157人	418人			
出前講座開催回数	指標		6回	6回	7回	7回	8回	8回	目標を上回っている。
	実績	3回	6回	7回	9回	9回			
出前講座受講者数	指標		260人	280人	300人	320人	340人	360人	目標を上回っている。
	実績	126人	510人	347人	569人	448人			
シニアカレッジ受講者数	指標		600人	600人	600人	600人	600人	600人	新たな会場の設置等により、受講者数は増加している。
	実績	492人	647人	811人	817人	1,016人			

5 社会人の学び直しの機会の提供

◆評価指標：フレックス(夜間)コースの検討状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
公立大学法人化後検討開始	指標	-		フレックス(夜間)コースの検討		基本方針決定	着手		検討を進めたが、事業の内容および実施の手法について課題が残った。
	実績		情報収集	検討	検討	検討			

② 研究関連

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

◆評価指標：オンラインデータ数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
オンラインデータ数	指標	-	80件	140件	200件	270件	340件	420件	登録件数は着実に増加している。
	実績		238件	361件	435件	1,490件			

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

◆評価指標：協働プロジェクトの取組実績(6年間の累計)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
協働プロジェクトの取組実績	指標		15件	17件	19件	21件	23件	25件	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、良好に推移している。
	実績	9件	43件	44件	38件	25件			

8 研究成果等の地域への還元

◆評価指標: 研究会・シンポジウム開催回数、参加者数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
開催回数	指標		13件	13件	13件	13件	13件	13件	研究成果の地域への還元が着実に進んでいる。
	実績	月1回以下	47件	58件	54件	70件			
参加者数	指標		150人	150人	150人	150人	150人	150人	研究成果の地域への還元が着実に進んでいる。
	実績	約10人~15人	2,325人	3,510人	2,199人	4,270人			

③ 地域交流関連

9 学生の地域貢献

◆評価指標: 学生の地域貢献活動参加数(学生アンケートによる)(例: 地域行事への参加数、ボランティアへの参加数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
学生の地域貢献活動参加数	指標		延べ150人	延べ300人	延べ450人	延べ600人	延べ600人	延べ600人	学生アンケートの結果に基づく低調だが、フィールドワーク参加学生数は目標を大きく上回っている。
	実績	延べ131人	235人	225人	239人	195人			

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

◆評価指標: 県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数	指標		18件	19件	20件	21件	22件	23件	地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、目標を上回っている。
	実績	17件	21件	22件	27件	29件			

11 地域交流拠点の活用(協働サロン等)

◆評価指標: 協働サロン利用状況、地域サテライト利用状況(延べ人数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
協働サロン	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人	これまでの活動が認知され目標を大きく上回っている。
	実績	804人	706人	975人	682人	995人			
地域サテライト	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人	(平成29年度まで)
	実績	330人	144人	97人	70人	-			

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
図書館利用者数(学外者)	指標		2,150人	2,220人	2,290人	2,360人	2,430人	2,500人	一定数の学外利用者がみられる。
	実績	2,374人	2,060人	2,007人	2,104人	2,382人			
県民(市民)講座受講者数	指標		150人	210人	220人	230人	240人	250人	受講者数も着実に増加している。回数増が課題である。
	実績	30人	115人	209人	157人	418人			
協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人	これまでの活動が認知され目標を大きく上回っている。
	実績	804人	706人	975人	682人	995人			
地域サテライト利用者数	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人	(平成29年度まで)
	実績	330人	144人	97人	57人	-			

IV 国際交流

1 学生の国際交流

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析	
留学生 受入数	交換留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人	受入留学生は指標を上回り増加傾向にある。	
		実績	5人	5人	5人	5人	7人			
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人		
		実績	0人	0人	14人	17人	18人			
留学生 派遣数	交換留学	指標		2人	2人	2人	3人	3人	派遣留学生は指標を上回り増加傾向にある。	
		実績	6人	3人	2人	8人	10人			
	短期留学	指標		7人	8人	9人	10人	11人		12人
		実績	7人	13人	6人	10人	13人			
海外フィールドワーク参加 学生数	指標		8人	8人	8人	8人	9人	9人	参加学生数は指標を大きく上回り増加傾向にある。	
	実績	0人	12人	12人	38人	26人				

2 教員の国際交流

◆評価指標:共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
共同研究・発表・シンポジウ ム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回	交流支援の充実により、開催数は指標を上回っている。
	実績	4回	6回	6回	8回	9回			

3 国際交流組織体制の整備

◆評価指標:連携協定締結校数(累計)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
連携協定締結校数(累計)	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校	締結校数は指標を上回り増加傾向にある。
	実績	7校	9校	12校	15校	17校			

V 法人運営 ① 組織運営と人事管理の改革

1 ガバナンス体制の充実強化

◆評価指標:外部評価結果

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
外部評価結果	指標		中期目標期間を通じて高い評価結果を維持						「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と認められている。
	実績	—	概ね順調	概ね順調	概ね順調				

2 同窓会・後援会との連携

◆評価指標:本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)	指標		15%	14%	13%	11%	9.5%	8%	施設整備の遅れなどから前年度よりも不満を持つ保護者が増えている。
	実績	16%	13%	9%	10%	21%			

3 コンプライアンスの確保

◆評価指標:コンプライアンス担当組織の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
コンプライアンス担当組織の整備状況	指標		法人組織において必要なコンプライアンス担当組織を整備						法人組織において必要なコンプライアンス担当組織を整備した。
	実績	一部整備	整備済	整備済	整備済	整備済			

4 危機管理体制の整備

◆評価指標:危機管理体制の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
危機管理体制の整備状況	指標		法人組織において必要な危機管理体制を整備						法人組織において必要な危機管理体制を整備した。
	実績	未整備	未整備	整備着手	対応策策定中	整備済			

② 健全な財務の構築と維持

5 収入の確保

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
繰越金の額	指標		中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持						繰越金の額がプラスの状態を維持した。
	実績	法人化前	19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円			

6 経費の節減

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
繰越金の額	指標	法人化前	中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持						繰越金の額がプラスの状態を維持した。
	実績		19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円			

7 業務の効率化

◆評価指標 業務効率化の取組状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
業務効率化の取組状況	指標		定期的に業務の見直し、効率化を実施						教務システムを導入し、効率化を着実に取り組んでいる。
	実績	システム導入準備	一部を除いて導入済			教務システム導入			

③ 法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

8 法人の自己点検・評価

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
自己点検・評価の実施状況	指標	-	定期的に自己点検・評価を実施						平成29年度実績について、自己評価を実施した。今年度上半期を対象とした中間点検を実施した。
	実績		H28年度実施	H29年度実施	H30年度実施	H31年度実施			

9 法人情報の公開の推進

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
情報公開の状況	指標	-	ホームページにおいて公表する情報を充実						適時適切に行っている。
	実績		-	公表	公表	公表			

10 情報発信体制の強化

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	評価指標の現状分析
メディア掲載件数	指標		55件	56件	57件	58件	59件	60件	メディアへの積極的なPR等により、多くの活動の掲載に繋がった。
	実績	52件	73件	78件	82件	76件			

第1期中期目標期間終了時 業務実績見込み報告書

I 教育

① 教育内容の充実

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成	・4つの学習コモンズを設け、ゼミを重視したカリキュラムを段階的に導入した。(H29完成) ・コモンズ制の仕組みを随時見直し、少人数教育の強みをより活かすよう運用方法を工夫した。	・学生アンケートの結果、指標と実績にまだ差があり、さらなる学生へのサポートが必要である。	・少人数対話型教育を推進し、地域に貢献できるすぐれた人材の育成が推進されていることが見込まれる。	A

◆評価指標 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%		
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%		
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%		

I-1

I 教育

① 教育内容の充実

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成	・フィールドワークの必修化により、問題意識をもって思考・実践する機会形成を図った。 ・学生の主体性をより重視し、フィールドワークによる学びの質を向上させることを目標に新カリキュラムを開始した。(H30) ・市町村、地域団体等との連携により、継続的に学びのフィールドを拡充した。	・フィールドワークの件数、参加延べ学生数ともに目標を大きく上回っているが、学びの質向上のため、主体的な学びと地域との連携の実質化を図るべく、平成30年度にカリキュラム改正を実施した。	・平成30年度からの新カリキュラムにより、フィールドワーク等を通じた学びの質が向上し、主体的に社会の課題と向き合い、自ら考え実践できる人材が育っていくことが見込まれる。	A

◆評価指標 実習件数、実習参加延べ学生数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
件数	指標	-	400件	800件	1,200件	1,200件	1,200件	1,200件
	実績		214件	948件	2,195件	2,200件		
学生数	指標	-	400人	800人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人
	実績		214人	948人	2,195人	2,200人		

I-2

I 教育

① 教育内容の充実

3 リベラルアーツ教育の充実

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的にリベラルアーツ科目の増設を行った。 ・社会で幅広く活躍している外部講師を招いた講義等を実施し、リベラルアーツ科目と基礎ゼミとの連携を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育への関心が高まっており、リベラルアーツ科目の充実のため指標を上回って開講している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要不可欠な幅広い教養を身につけた人材の育成が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 リベラルアーツ科目数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
リベラルアーツ科目数	指標		19科目	20科目	20科目	21科目	21科目	22科目
	実績		19科目	21科目	25科目	26科目	32科目	

I - 3

I 教育

① 教育内容の充実

4 高度な語学教育の提供

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・英語アドバンスト授業としてTOEFL、TOEIC対策や観光英語など学生のニーズに合った語学教育を提供した。 ・英語スピーチコンテストを実施した。(H30) ・TOEFL ITPの学内受験を実施し、新入生全員と上学年成績上位者には受験料の補助を行った。(H29～) ・屋休みの時間帯にe-Caféを実施し、ネイティブ英語に親しむ機会を提供した。(H29～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生に占めるTOEFLiBT65点以上の学生の割合は横ばいとなっており、指標には届いていないが、海外語学研修や長期留学を希望する学生は増加傾向にあり、大学内での様々な取組、活動が学生のモチベーションとなっている。(参考: IV-1の評価指標) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外を問わず、国際的な場で自己表現が可能な学生の増加が見込まれる。 	A

◆評価指標 TOEFLiBT65点以上の学生が全学生に占める割合

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
TOEFLiBT65点以上の学生が全学生に占める割合	指標		5%	8%	11%	14%	17%	20%
	実績		3%	3%	4%	3%	3%	

TOEFLiBT65点に相当する点数: TOEIC600点、TOEFL CBT183点、TOEFL PBT513点

I - 4

I 教育

② 学生への支援

5 意欲ある学生の確保

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度入学生から前期入試と中期入試の募集定員の変更を行い、本学で学ぶ意欲のある学生の確保に努めた。 県内及び近隣府県の高校訪問を実施し、本学のPRに努めた。 オープンキャンパスでは、教員の研究紹介やキャリアに関する説明会を実施するとともに、個別相談も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校への説明件数は、おおむね評価指標を達成している。 入学志願倍率については、18歳人口減少の中において、確実に成果が上がっていると言える。 アドミッションポリシーをはじめ3つのポリシーをしっかりと伝えることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校訪問等によるPRの実施、入試制度の改革等により、学ぶ意欲の高い学生を確保し、学びの質が向上していることが見込まれる。 	A

◆評価指標 大学PRのための高校への説明件数、入学志願倍率

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
高校への説明件数	指標		65件	68件	71件	74件	77件	80件
	実績	56件	71件	86件	77件	65件		
入学志願倍率	指標		8.8倍	9.1倍	9.3倍	9.5倍	9.8倍	10.0倍
	実績	8.6倍	8.2倍	7.7倍	7.1倍	9.2倍		

I-5

I 教育

② 学生への支援

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 各学期ごとに授業について「講義方法と受講態度に関するアンケート」を実施し、授業ごとに教員が問題点・改善点等について検討した。 FD・SD委員会において授業の質的向上を検討し、FD研修会を開いて平成31年度以降の新しい取組を策定した。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の不満の多くはカリキュラム選択の自由度によるものであったと考えられるが、平成30年度のカリキュラム変更によって改善されており、今後は減少すると予想される。 授業評価方法の見直しを含め、FD活動の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤教員も含めたFD研修で教育内容の質的なレベルアップの方策について検討し、その内容が継続的に向上していることが見込まれる。 	A

◆評価指標 教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		18.5%	17.0%	15.5%	14.0%	12.0%	10.0%
	実績	19.8%	28.3%	35.9%	39.2%	23.6%		

I-6

I 教育

② 学生への支援

7 学生のキャリアサポートの充実

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先企業との連携等により就職対策講座を実施した。 ・初年次からのキャリア教育を単位化した。(H30) ・リカレント相談員の配置による卒業生への対応を実施した。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験に再チャレンジする学生が一定数存在しており、就職率に影響が出ている。 ・応募書類作成、模擬面接を希望者に複数回したことで、学生自身の理解度が深まり満足度が向上したと思われる。 ・リカレント相談員の配置については前倒しで実施できた。 ・内定先や来校企業、また学生が応募している企業に積極的に訪問した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次からのキャリアデザインの意識づけなどによる就職率の向上が見込まれる。 ・卒業生へのアンケートによる採用先の情報の収集と転職等の相談に対応するリカレント相談員の配置により、早期離職の改善が見込まれる。 	A

◆評価指標 教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持					
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%		
就職サポートに不満な学生の割合	指標		23%	21%	19%	17%	15%	13%
	実績	25%	24%	23%	33%	19%		
リカレント相談件数	指標		実施に向けて検討・準備					
	実績	実績なし	—	—	—	4件		10件
企業訪問件数	指標		42件	44件	46件	48件	50件	50件
	実績		32件	10件	46件	51件	55件	

I-7

I 教育

② 学生への支援

8 学生生活へのサポート

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルカウンセリングを月2回実施した。 ・教員が学生の質問を受けるオフィスアワーを実施した。 ・障害のある学生への支援に関わるガイドラインを作成した。(H29) ・学務システムを稼働し、学生がPC・スマートフォンからWeb上で履修登録が行えるようにした。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の充実により中退率は0.5～1.1%の間、留年率は2～3%の間で推移しており、法人化前よりも減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活へのサポートの充実や、学生の利便性の向上により、留年者及び中退者が減少することが見込まれる。 	A

◆評価指標 中退率及び留年率(やむを得ない事情によるものを除く)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
中退率	指標		0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.0%
	実績		1.1%	0.5%	0.5%	0.9%	0.7%	
留年率	指標		2.0%	1.6%	1.2%	0.8%	0.4%	0.0%
	実績		3.7%	3.8%	2.6%	2.2%	2.3%	

やむを得ない事情による中退:進路変更等。やむを得ない事情による留年:病気等による休学等。

I-8

I 教育

③ 教育を支える施設整備

9 学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
教員と学生が共に学べるキャンパスの整備	・県が実施する施設整備の実施にあたり、法人の要望をとりまとめるとともに検討・調整を行った。	・メディアセンター等についてはさらなる検討が必要であるが、平成28年度策定の「施設整備基本計画」に基づき、整備が進められている。	・施設整備構想のうち、コモンズ棟、クラブハウス棟が整備されることが見込まれる。	B

◆評価指標 施設整備構想の進捗状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
施設整備計画	指標		コモンズ教室8室・学生会館・ラーニングコモンズ整備					
	実績	未整備	検討保留中	県基本計画策定	コモンズ棟基本設計	コモンズ棟実施設計		

I - 9

I 教育

③ 教育を支える施設整備

10 図書館機能の充実・強化

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備	・地域創造学研究に資する蔵書を充実させ、利用の促進を図った。	・ゼミや授業で積極的に図書館の利用を促しており、蔵書数、利用人数、貸出冊数は増加し、特に利用人数あたりの貸出冊数は増加している。	・地域創造学研究に資する蔵書の充実、利用の増加が見込まれる。 ・メディアセンターについてはさらなる検討が必要なことから、中期目標期間内には整備されない見込み。	A

◆評価指標 蔵書数、図書館利用人数、図書館貸出冊数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
蔵書数	指標		104,600冊	107,500冊	110,400冊	113,300冊	116,200冊	119,100冊
	実績	107,360冊	109,432冊	111,017冊	112,788冊	114,140冊		
図書館利用人数	指標		16,300人	17,300人	18,300人	19,300人	20,300人	21,300人
	実績	18,701人	18,966人	18,108人	19,184人	21,711人		
図書館貸出冊数	指標		5,900冊	6,100冊	6,200冊	6,400冊	6,500冊	6,700冊
	実績	6,643冊	7,776冊	7,527冊	11,606冊	14,094冊		

I - 10

II 研究

1 研究の適切な成果評価

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金の積極的な確保に努めた。 ・科学研究費補助金の採択者へのインセンティブ付与や共同研究員制度を導入(ともにH31から)するなど、研究支援を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金の申請件数(代表分。②⑥6件→③①5件)に大きな変化はないが、採択数が減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究支援の充実により、より社会のニーズに応じた研究活動を実施し、社会に貢献することが見込まれる。 	A

◆評価指標 科学研究費補助金の採択件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
科学研究費補助金の採択件数	指標		10件	10件	11件	11件	12件	12件
	実績	21件	25件	21件	16件	12件		

II-1

II 研究

2 課題解決に寄与する研究活動の推進

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・学術論文相当の成果、学会発表等を行ってきており、研究季報の発行、奈良県立大学リポジトリへの論文等の登録を進め、研究成果を広く発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学会発表等を行い研究成果の発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を広く発信することで、社会の問題解決への貢献が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 学術論文相当、学会発表等件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
学術論文相当	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件
	実績	37件	19件	18件	23件	35件		
学会発表等	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件
	実績	88件	36件	23件	32件	38件		

II-2

II 研究

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムを開催した。(H27: 1回、H28~H30: 各2回) ・公開講座を開催した。(H30: 1回) ・情報誌「EURO-NARASIA Q」を発行した。(H27: 4回・各10,000部、H28~H30: 各3回・7,000部) ・東アジア・サマースクールを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良とユーラシアに関する研究活動とその成果を県内外に広く発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の推進とその成果発表を進めることにより、成果が県民に還元されることが見込まれる。 	A

◆評価指標 研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回
	実績	未実施	1回	2回	2回	3回		

II-3

III 地域貢献

① 教育関連

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時から、キャリア形成の意識付けから就職活動までを包括的に支援する体制を整備した。 ・「キャリアデザイン I・II」の講義および3年生対象の「キャリア形成講座・就職対策講座」等において、卒業生の就職先企業の社員、自治体職員を外部講師として招聘し、「社会のニーズ」を直接聞く機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの結果、指標と実績にまだまだ差があり、さらなるキャリア形成支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%		
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%		
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%		

III-1

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やゼミ等で、広く多様な世界を知り考えることを通じて、多面的な視点で「奈良」という地域を相対化し、その魅力や課題を捉える力の育成を図った。 ・「奈良」を直接的に題材とする科目として、「教養講義Ⅰ(大和まほろば学)」「文学(奈良と文学)」などを開講した。 ・奈良県内における学生の学びのフィールドを継続的に拡充した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良に関する教育科目に不満な学生の割合」は平成30年度に大きく増加したが、31年度より「教養講義Ⅷ(奈良文化コンテンツ論)」「教養講義Ⅸ(奈良文化イメージ論)」を新たに開講することを決定した。また、それ以外の講義、ゼミやフィールドワーク等を通じて育成された力によって、自ら奈良をフィールドとして選択し、調べ、考え実践できる人材は育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く多様な世界を知り考えることを通じて、多面的な視点で「奈良」という地域を相対化して捉え、その魅力や課題を他者に伝えることができる人材が育成されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		5.5%	5.0%	4.5%	4.0%	3.5%	3.0%
	実績	6.2%	5.4%	4.8%	6.3%	11.3%		

Ⅲ-2

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

3 地域の学校(大学・高等学校)間の連携による地域貢献

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
地域の学校間の連携を通して、大学の使命である地域づくりへの貢献を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業を着実に実施し、連携先高校の増加とともに、事業内容の質の向上を図った。 ・教員紹介や出前講義案内をまとめたシーズ集「教員データベース」を発刊し、県下の全高校に配布し広報に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校数は増加し、連携先高校との継続的な事業実施により事業実施回数(263回→3010回)も増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業が着実に実施されることで、主体的な学びの機会を地域と共有し、社会を担う人材育成に貢献できていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 高大連携事業による実施校数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
高大連携事業による実施校数	指標		3校	3校	3校	4校	4校	4校
	実績	3校	3校	3校	3校	5校		

Ⅲ-3

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する	<ul style="list-style-type: none"> 協働プロジェクトの成果等を発表するセミナーを開催した。 県民のニーズに応じた出前講義を実施した。 県民講座を4年間で10回開催した。 受講者のニーズに応じて見直しを行いながら、奈良県立大学シニアカレッジを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民講座の受講者数は増加傾向にあり、適切な事業提供ができています。 出前講座の開催回数・受講者数ともに目標を大きく上回っている。 シニアカレッジは、受講ニーズの増加に応えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座や各種セミナー等を通じて、本学の研究成果等を県民の生涯学習の機会に活用できていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 県民に対する生涯学習の機会の提供

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回
	実績	年2回	年2回	年2回	年3回	年3回		
県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人
	実績	30人	115人	209人	157人	418人		
出前講座開催回数	指標		6回	6回	7回	7回	8回	8回
	実績	3回	6回	7回	9回	9回		
出前講座受講者数	指標		260人	280人	300人	320人	340人	360人
	実績	126人	510人	347人	569人	448人		
シニアカレッジ受講者数	指標		492人	600人	600人	600人	600人	600人
	実績		647人	811人	817人	1,016人		

Ⅲ-4

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

5 社会人の学び直しの機会の提供

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
社会人に大学での学び直す機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもらう	<ul style="list-style-type: none"> フレックス(夜間)コースの開設に関して、他大学での先行事例の調査等を実施し、本学での実施の可否等について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 検討を続けてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人が大学で学び直す機会が提供されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 フレックス(夜間)コースの検討状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
公立大学法人化後検討開始	指標			フレックス(夜間)コースの検討	基本方針決定	着手		
	実績	-	情報収集	検討	検討	検討		

Ⅲ-5

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する	・「地域創造データベース」(～H29)および「奈良県立大学リポジトリ」(H30～)へ論文データ等を登録し、広く情報を公開した。	・登録データ件数は増加し、CiNii Articlesとシステム連携しオープンアクセス化したことにより論文データのダウンロード数(㉗17,674件→㉘108,633件)も増加している。	・登録データ登録件数が増加するとともに、情報の利用が着実に進捗することが見込まれる。	A

◆評価指標 オンラインデータ数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
オンラインデータ数※	指標		80件	140件	200件	270件	340件	420件
	実績	-	238件	361件	435件	1,490件		

※地域創造データベース(H29以前)、奈良県立大学リポジトリ(H30以降)への登録件数

Ⅲ-6

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる	・市町村、地域団体等のニーズと本学教職員の専門性とのマッチングを図り、課題解決に向けた協働プロジェクトを推進した。 ・市町村、県内企業との連携協定の締結により、協働の契機増加に努めた。 ・研究推進と地域貢献とのマッチングを強化する機能を有した拠点整備構想の検討を開始した。(H30)	・地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、協働プロジェクトの実績数は連携協定の増加に伴い目標を上回っている。	・地域のニーズと本学の研究シーズのマッチングをより強化し、地域コミュニティの中核的存在として相応しい本学の知的資源がいかされた質の高い協働プロジェクトが推進されていることが見込まれる。	A

◆評価指標 協働プロジェクトの取組実績(6年間の累計)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
協働プロジェクトの取組実績	指標		15件	17件	19件	21件	23件	25件
	実績	9件	43件	44件	38件	25件		

Ⅲ-7

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

8 研究成果等の地域への還元

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・研究季報の発行、奈良県立大学リポジトリへの論文等の登録を進め、研究成果を広く発信した。 ・地(知)の拠点整備事業広報誌の継続的な発行を通じて、教職員・学生の研究成果を地域に還元した。 ・県民講座を4年間で10回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信により研究会、シンポジウムは、開催回数、参加者数ともに指標を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季報の発行、論文等の公開、県民講座の実施等により、研究成果等の地域への還元が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 研究会・シンポジウム開催回数、参加者数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
開催回数	指標		13件	13件	13件	13件	13件	13件
	実績	月1回以下	47件	58件	54件	70件		
参加者数	指標		150人	150人	150人	150人	150人	150人
	実績	約10人～15人	2,325人	3,510人	2,199人	4,270人		

Ⅲ-8

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

9 学生の地域貢献

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における学びのフィールドの拡充、学生の問題関心とフィールドとのマッチング、学生の研究成果の地域団体等との共有の機会確保など、学生の地域における研究活動に対する支援の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの結果に基づくと、学生の地域貢献活動参加数は指標と比べると低調であるが、フィールドワークの参加学生数(㉔214人→㉕2,200人)は目標を大きく上回っており、学生の地域への貢献は一定程度なされている。(参考: I-2の評価指標) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の地域における研究活動に対する支援を充実させることで、学生の地域貢献が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 学生の地域貢献活動参加数(学生アンケートによる)(例:地域行事への参加数、ボランティアへの参加数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
学生の地域貢献活動参加数	指標		延べ150人	延べ300人	延べ450人	延べ600人	延べ600人	延べ600人
	実績	延べ131人	235人	225人	239人	195人		

Ⅲ-9

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の自治体・地域団体等との連携協定の締結により、協働の契機の増加に努めた。 ・自治体・地域団体等のニーズと本学教職員の専門性とのマッチングを図り、課題解決に向けた研究活動や協働プロジェクトを推進し、その成果を地域に還元してきた。 ・研究推進と地域貢献とのマッチングを強化する機能を有した拠点整備構想の検討を開始した。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズと研究シーズのマッチングを強化したことにより、連携協定数は、目標を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズと本学の研究シーズのマッチングを強化する機能を有した拠点が整備され、本学の知的資源をいかした地域貢献活動が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数	指標		18件	19件	20件	21件	22件	23件
	実績	17件	21件	22件	27件	29件		

Ⅲ－10

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

11 地域交流拠点の活用(協働サロン等)

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・協働サロン及び地域サテライトを継続的に活用することにより、地域との協働の契機の増加に努めるとともに、課題解決に向けた協働プロジェクトのスムーズな推進を図ってきた。 ・協働サロンおよびこれを活用した事業については、大学ホームページやSNS等により積極的な広報に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動が認知され協働サロンの利用状況は、目標を上回っている。(地域サテライトは平成29年度に移管済) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流拠点の積極的な活用により、地域の課題解決に向けた研究活動や協働プロジェクトが推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 協働サロン利用状況、地域サテライト利用状況(延べ人数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
協働サロン	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人
	実績	804人	706人	975人	682人	995人		
地域サテライト	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人
	実績	330人	144人	97人	70人	—		

Ⅲ－11

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
地域交流のできる施設の整備及び県民への開放	・大学説明会、県民講座、シニアカレッジ、ユーラシア研究センターフォーラム、東アジア・サマースクールなどの各種イベント情報について大学ホームページ等による広報を行った。	・様々な広報手段の活用により概ね順調に推移している。	・ニーズに合った事業活動、適切な広報活動に努め、県民へ開かれた大学の実現が見込まれる。	A

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
図書館利用者数(学外者)	指標		2,150人	2,220人	2,290人	2,360人	2,430人	2,500人
	実績	2,374人	2,060人	2,007人	2,104人	2,382人		
県民(市民)講座受講者数	指標		150人	210人	220人	230人	240人	250人
	実績	30人	115人	209人	157人	418人		
協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人
	実績	804人	706人	975人	682人	995人		
地域サテライト利用者数	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人
	実績	330人	144人	97人	70人	-		

Ⅲ-12

Ⅳ 国際交流

1 学生の国際交流

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
学生レベルの国際交流を充実する	・海外大学との学術交流協定の締結を進めた。(267校→3017校) ・長期の受入留学生に対し民間住宅を借り上げ家賃補助を行った。 ・海外協定校への派遣留学生に対し費用助成を実施した。	・留学支援の充実により留学生数について、受入・派遣とも指標値を上回り、順調に推移している。	・各種取り組みの実施により、学生レベルの国際交流の一層の充実が見込まれる。	A

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
留学生受入数	長期留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人
		実績	5人	5人	5人	5人	7人	
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人
		実績	0人	0人	14人	17人	18人	
留学生派遣数	長期留学	指標		2人	2人	2人	3人	3人
		実績	6人	3人	2人	8人	10人	
	短期留学	指標		7人	8人	9人	10人	11人
		実績	7人	13人	6人	10人	13人	
海外フィールドワーク参加学生数	指標		8人	8人	8人	8人	9人	9人
	実績	0人	12人	12人	38人	26人		

Ⅳ-1

IV 国際交流

2 教員の国際交流

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との学術交流協定の締結を進めた。(㉔7校→㉔17校) ・海外の有識者を招聘するなどして国際セミナーを開催した。 ・国際的な学術研究活動を行っている研究者を招聘し、「中国経済概論」を開設した。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流支援の充実により指標を上回る共同研究・発表・シンポジウム・共同発表が開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種取り組みの実施により、大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の一層の向上が見込まれる。 	A

◆評価指標 共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回
	実績	4回	6回	6回	8回	9回		

IV-2

IV 国際交流

3 国際交流組織体制の整備

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との学術交流協定の締結を進めた。 ・海外の有識者を招聘するなどして国際セミナーを開催した。 ・国際的な学術研究活動を行っている研究者を招聘し、「中国経済概論」を開設した。(H30) ・大学ホームページの多言語化とその充実を図り、海外に向けた情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流支援の充実により海外大学との学術交流協定の締結数は指標を上回り順調に推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種取り組みの実施により、海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 連携協定締結校数(累計)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
連携協定締結校数(累計)	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校
	実績	7校	9校	12校	15校	17校		

IV-3

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

1 ガバナンス体制の充実強化

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・SD研修会を実施して、職員の資質能力の向上を図った。 ・法人の重要事項について理事会、経営審議会及び教育研究審議会を開催し重要事項の審議を行った。 ・運営調整会議を毎月開催し、機動的な法人運営を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会において「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と認められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に理事会等を開催し、理事長と学長のリーダーシップにより、効率的な法人運営が推進されることが見込まれる。 	A

◆評価指標 外部評価結果

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
外部評価結果	指標	-	中期目標期間を通じて高い評価結果を維持					
	実績		概ね順調	概ね順調	概ね順調			

V-1

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

2 同窓会・後援会との連携

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績	評価
卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会役員会にて、後援会役員と大学教職員が意見交換を行った。 ・同窓会が開催するホームカミングデーの運営に、在学生も協力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学に不満な保護者の割合は、施設整備の遅れなどから増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会、後援会と定例的に意見交換を行うことで協力体制が推進されることが見込まれる。 	A

◆評価指標 本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)	指標		15%	14%	13%	11%	9.5%	8%
	実績	16%	13%	9%	10%	21%		

V-2

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

3 コンプライアンスの確保

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金の不正防止及び内部監査のためのコンプライアンス担当部署の体制を整備した。(H27, H30) ・セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど人権侵害を含むコンプライアンス担当部署の体制を整備した。(H27) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人組織において必要なコンプライアンス担当組織を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの向上が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 コンプライアンス担当組織の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
コンプライアンス担当組織の整備状況	指標		法人組織において必要なコンプライアンス担当組織を整備						
	実績	一部整備	整備済	整備済	整備済	整備済			

V-3

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

4 危機管理体制の整備

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理室を設置した。(H30) ・火災訓練、防災訓練の準備を進めた。(H31より実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人組織において必要な危機管理体制を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練、防災訓練を行い教職員、学生ともに危機管理意識を高め、危機管理体制が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 危機管理体制の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
危機管理体制の整備状況	指標		法人組織において必要な危機管理体制を整備						
	実績	未整備	未整備	整備着手	対応策策定中	整備済			

V-4

V 法人運営

②健全な財務の構築と維持

5 収入の確保

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
中期目標期間中の安定的な財務状況の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、経営審議会を開催し、決算・予算等を審議し、方針決定を行った。 ・科学研究費補助金、市町村等からの受託事業など独自財源の確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化後、繰越金の額がプラスの状態を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標期間中にわたり、安定的な財務状況を維持できることが見込まれる。 	A

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
繰越金の額	指標		中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持					
	実績	法人化前	19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円		

V-5

V 法人運営

②健全な財務の構築と維持

6 経費の節減

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
中期目標期間中の安定的な財務状況の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、経営審議会を開催し、決算・予算等を審議し、方針決定を行った。 ・アウトソーシングの導入等による経費の抑制を検討し、国際交流室の業務委託を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化後、繰越金の額がプラスの状態を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標期間中にわたり、安定的な財務状況を維持できることが見込まれる。 	A

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
繰越金の額	指標		中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持					
	実績	法人化前	19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円		

V-6

V 法人運営

②健全な財務の構築と維持

7 業務の効率化

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
効率的・効果的な大学 経営に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・人事給与システム、財務会計システム及び事務系基盤システム、旅費システムを運用し、法人業務の効率化を図った。 ・学務システムを稼働し、学生はPC・スマートフォンよりWeb上で履修登録が行えるようになった。(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に業務の見直し、効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種システムの適正な保守を行うことで、効率的・効果的な大学経営が推進されていることが見込まれる。 	A

◆評価指標 業務効率化の取組状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
業務効率化の取組状況	指標		定期的に業務の見直し、効率化を実施					
	実績	システム導入準備	一部を除いて導入済		教務システム導入			

V-7

V 法人運営

③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

8 法人の自己点検・評価

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
県民に信頼される法人 運営を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の委員会で、毎年自己点検・評価を実施するとともに、奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会においても「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と認められてきた。 ・大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」と評価された。(H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年度に自己評価を行っているほか、毎年中間実績をとりまとめ、下半期の法人運営や、翌年度の年度計画の策定に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の自己点検・評価を引き続き行い、県民に信頼される法人運営が見込まれる。 	A

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
自己点検・評価の実施状況	指標		定期的に自己点検・評価を実施					
	実績	-	H28年度実施	H29年度実施	H30年度実施	H31年度実施		

V-8

V 法人運営

③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

9 法人情報の公開の推進

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
県民に信頼される法人 運営を行う	・法定公表情報のほか法人が 定める各種規程等を随時更 新した。	・適時適切に行ってい る。	・法定公表情報およ び法人が定める規定 等の更新を随時行 い、適切な法人運営 の実施が見込まれ る。	A

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
情報公開の状況	指標		ホームページにおいて公表する情報を充実					
	実績	-	-	公表	公表	公表		

V-9

V 法人運営

③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

10 情報発信体制の強化

期待する成果	法人の自己評価			
	これまでの業務の実績	評価指標の分析	中期目標期間終了時に 見込まれる業務の実績	評価
大学の認知度の向上、 ブランドイメージの向上	・広報戦略を策定した。(H30) ・大学広報誌を継続的に発行 するとともに、メディアへの情 報提供も積極的に実施した。	・積極的なPR等により、 多くの活動がメディアへ 掲載されており、順調に 推移している。	・広報戦略に基づい た情報発信を積極的 に行い、大学の認知 度およびブランドイ メージが向上してい ることが見込まれる。	A

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
メディア掲載件数	指標		55件	56件	57件	58件	59件	60件
	実績	52件	73件	78件	82件	76件		

V-10